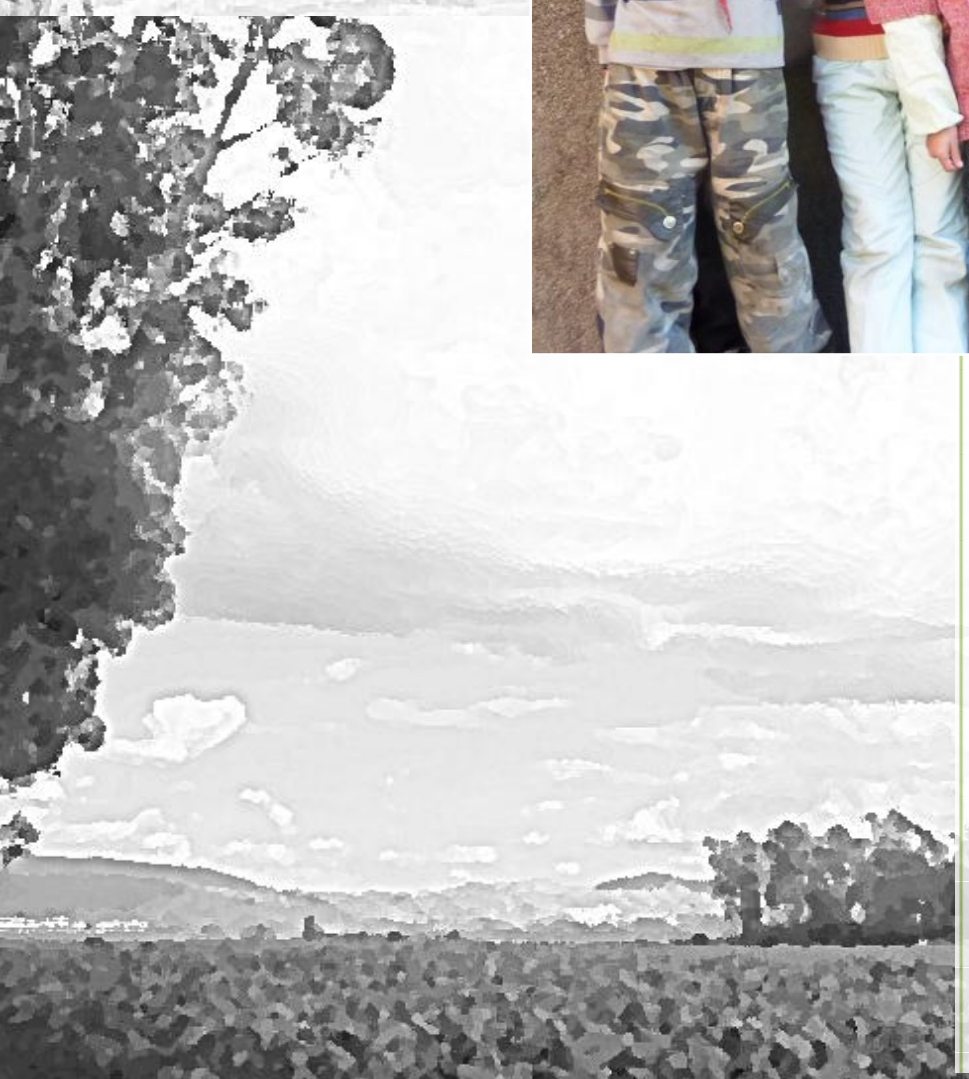


2009 年度活動報告書

雲南少数民族地域での学校を中心とした
健康・環境衛生改善プロジェクト



愛称：100万回の手洗プロジェクト

薄田榮光

日本雲南聯誼協会

2010/04/05

日本雲南聯誼協会

〒162-0846

東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

TEL : 03-5206-5260

FAX : 03-5206-5261

E-MAIL : yunnan@jyfa.org

概略

この 2009 年度活動報告書は日本雲南聯誼協会が実施する「雲南少数民族地域での学校を中心とした健康・環境衛生改善プロジェクト（愛称：100 万回の手洗いプロジェクト）の企画が始まった 2007 年 7 月から 2009 年 3 月までの時間経過と活動に関わった関係者を軸に、プロジェクト活動の実像をまとめたものである。

100 万回の手洗いプロジェクトは 2007 年暮れから 2008 年にかけて実施された基礎調査をもとに、JICA の草の根技術協力事業にプロポーザルを提出し、採択された技術協力プロジェクトである。プロジェクトの成果は支援する小学校教師や子どもたちの衛生に関する知識や態度、行動が変化することを求めている。この点で、これまでの協会が支援してきた資金協力とは異なる。また JICA との契約ベースでプロジェクトを管理するという点でも協会にとって初めての経験となる。

プロジェクトは協会が建設支援した白雲小学校、籐誼小学校、果科小学校のほか、それらを管轄する中心小学校を対象として、「小学校の健康・環境衛生に対する対処能力が高まる」という状態を実現するために、以下の結果をプロジェクト期間の 2 年の内にもたらすというものだった。

- (1) 教師・学校保健関係者の健康と衛生に関する実践的な指導能力が高まる（教師の衛生教育研修を通じて）
- (2) 小学校 5・6 年生の健康・環境衛生に関する対処能力が高まる（パネルシアターなどを用いた仲間教育プログラムをこどもたちが実践することによって）
- (3) 小学校の衛生環境向上のための施設が改善される（貯水槽設置・改善、手洗い場設置、共同トイレ改善、太陽熱温水器・シャワー

室を設置することによって）

- (4) 健康と衛生に関する小学校と小学校圏の住民との関係が構築される（子どもたちによるポスター啓発、イベント開催をすることによって）
- (5) 小学校の健康と環境衛生プログラムを支援する資源センターが構築される（本プロジェクトの成果の公開、ニューズレター発行を通じて）

これまで白雲小学校への出張研修を含む昆明での教師研修を 2009 年 8 月と 2010 年 2 月に実施し、56 人の参加者が衛生教育授業・課外授業の実践的方法を学んだ。この眼目とするところは、教材や授業計画を作るプロセスを通じて、互いの経験を持ち寄り、強化することであった。研修では日本の伝統的な扇型人形劇（ペープサート）や動く紙芝居（パネルシアター）などが紹介されたほか、救急措置や手洗いの実践方法なども盛り込まれた。

衛生施設の改善も中国側と協力しながら進められ、白雲小学校には貯水槽と手洗い場、太陽光温水システムが新しく設置された。また籐誼小学校には、トイレの衛生改善のためのバイオガス施設の設置と太陽光温水システム、シャワー棟が新たに建設された。ただし、果科小学校は完全小学校への統合が決定されたため、プロジェクトの中で施設改善を行うことは見送られた。

教師研修が終わった後、学校現場では教師たちによるいくつかの実践が試みられた。今後のプロジェクト活動は、施設の利用状況と共に研修で学んだことがどのように現場で実践され、継続されるのかをモニタリング・評価することが焦点となる。

目次

概略	1
1. はじめに	5
2. プロジェクト開始までの経緯	6
2-1 技術協力への挑戦	6
2-2 「NGO 技術者派遣」の活用	7
2-3 基礎調査の実施	8
2-4 プロジェクト計画	11
2-5 プロジェクトの採択	12
3. プロジェクト実施の体制と管理	13
3-1 プロジェクトチーム	14
3-2 プロジェクト管理ツール	14
3-3 昆明でのモニタリングと調整	15
3-4 活動地のモニタリング	15
4. この 1 年の活動－四半期ごとの進捗状況	17
4-1 第 I 四半期（2009.5-6）	17
4-2 第 II 四半期（2009.7-9）	19
4-3 第 III 四半期（2009.10-12）	28
4-4 第 IV 四半期（2010.1-3）	29
5. 活動のフィールド	41
5-1 日本・雲南聯誼協会東京本部	41
5-2 日本・雲南聯誼協会雲南支部	42
5-3 雲南省僑務弁公室	43
5-4 建水県教育局	43
5-5 白雲小学校	44
5-6 福貢県統一戦線工作部	45
5-7 福貢県教育局	45
5-8 簾誼小学校	46
5-9 遠福小学校(簾誼小学校が属する架科底郷の中心小学校)	47
5-10 匹河小学校(果科小学校が属する匹河郷の中心小学校)	48
5-11 果科小学校	50
5-12 雲南エコ・ネットワーク（雲南生態網）	50
5-13 Web 制作会社	51
6. プロジェクトの実績と成果（2009 年度）	52

6-1	教師の実践力強化	52
6-2	子供たちが身につけたもの	55
6-3	施設・環境の改善	55
6-4	保護者や村人との関係	59
6-5	利用できるノウハウ	59
6-6	プロジェクト目標にどれだけ近づけたか	59
7.	課題と次年度の計画概要	60
8.	付録：作成資料と記録	61
8-1	第Ⅰ四半期	61
8-2	第Ⅱ四半期	62
8-3	第Ⅲ四半期	63
8-4	第Ⅳ四半期	63
8-5	研修参加者リスト	64
8-6	ボランティアリスト	65
8-7	関係者リスト	66
8-8	協会プロジェクトチーム	66
9.	添付：プロジェクト・デザイン・マトリックス	67
10.	添付：ベースライン調査データ	74

1. はじめに

100万回の手洗いプロジェクト

子どもたちに衛生的で安全な環境を！

1. プロジェクトの背景

私たちは、中国雲南省で9年間に渡って小学校建設とフォローアップ事業を実施してきました。支援する学校はアクセスが困難な僻地にあり、その厳しい環境とともに人々の意識、日常生活の慣習において衛生上問題が多いという共通課題があります。せっかく校舎を新しく作っても、トイレの使い方が非常に汚かったり、学校の敷地外に出れば、村は家畜の糞尿で道路や排水溝が塞がれているなど、劣悪な衛生環境が存在します。たびたび現地を目にするこのような状況に関しては、地元の政府からも改善したいとの声が上がっていますが、改善するためには現地で生活する一人ひとりの意識と行動を変えていく必要があります。



2. 主役は子どもたち自身

小学校の環境衛生の改善と子供たちや先生、親、村人たちの健康と衛生に対する対処能力を向上させるため、「100万回の手洗いプロジェクト」を企画しました。このプロジェクトは、小学校を取り巻く子供たち、先生、親、村人が主役となって、自発的に協力しながら住みよい環境を作っていくことに重点を置いた事業です。当協会が単独で行うものではなく、中国政府機関、現地NGO、公衆衛生の専門家、学校と村民が一緒に進めていくものです。先生や指導者層が自らプロジェクトを進めていけるよう、協会は背中を押す役目となります。



初年度は協会支援校の内3校の地域で次に挙げる「5つの活動」を実施し、その後、学校建設事業と平行して雲南省全域の支援小学校で実施していく予定です。

3. 「5つの活動」と実施体制図

- ① 先生・学校保健関係者の指導力向上のための研修
- ② 学校のトイレ施設改修
(貯水施設の改善や手洗い場設置バイオガス化)
- ③ 小学校での保健衛生教育の授業を使った「ポスターコンクール」、パネルシアターや歌による「手洗いキャンペーン」実施
高学年児童から低学年へ「仲間教育」の導入
- ④ 学校と村を結ぶ③のコンクール実施
- ⑤ プロジェクト資源センターの構築



プロジェクト紹介パネル：6月、地球ひろばセミナー

プロジェクトがいったん始まるといろんなことが起こる。予め計画した活動があれば、それぞれの局面で思わぬ事態が起こり、対応に追われる活動もある。こうした活動の動きは、プロジェクト管理のために作成する定型文書のほか、議事録、準備資料、評価分析データ、計算書、手順・リスト、フィールドノートとして記録されている。教師研修で使用した資料やオリジナルの絵、紙人形、ものがたり、写真、ビデオ、関わった人々の感想も活動のダイナミックな動きを写しとる重要な記録であろう。

プロジェクトが四半期ごとに作成する活動報告書はプロジェクトを管理する人たちのための定型文書に過ぎない。かねてから100万回の手洗いプ

ロジェクトのダイナミックな実像を協会会員はもちろん、広く一般の人々にも理解できる内容でまとめておきたいと考えていた。このプロジェクトが公金資金の支援を受け、遠く離れた中国の辺境地域の人々を巻き込んでいることを考えると、記録はプロジェクトの使命でもあろう。

これまでも会報やウェブ、イベントを通じて、活動の記録を部分的に公開してきたが、あまりにも俯瞰的すぎたり、部分的だったり、実像が見えにくかった。この2009年度活動報告書は、写真をふんだんに取り入れ、時間経過と関係者を軸に、プロジェクト活動の実像をまとめたものである。学校保健に関する国際協力のリソースとしても参考になるよう配慮した。

2. プロジェクト開始までの経緯



ロールプレイ：第1回教師研修にて

2-1 技術協力への挑戦

雲南少数民族地域での学校を中心とした健康・衛生環境改善プロジェクト（以下、プロジェクトと略す）は、日本雲南聯誼協会（以下、協会と略す）のフォローアップ事業として実施されている。協会では、建設支援を行った学校に対する追加調査で、必要と決定された追加支援やその後も日本の学校と相互交流を行うことをフォローアップ事業と定義している。プロジェクト開始までのいきさつは次のようなものだ。

2007 年 5 月、建水県白雲小学校の校舎・寄宿舎の改築が完了し、白雲小学校は、中国雲南の少数民族地域で展開する学校建設事業『50 の小学校

プロジェクト』の 11 校目の支援校となった。開校式に出席した協会と現地カパートナーの雲南省華僑連合会代表は、真新し校舎を前にして、しばし喜びに浸ったものの手放しで喜べない苦い経験をするようになった。

むら¹と小学校が共同で使用する公衆トイレがあまりに汚く、開校式の出席者はそこに近づくことさえできなかった。トイレだけでなく、校舎前の道は家畜の糞で覆われ、捨てられたプラスチック

¹ 「むら」は、いわゆる自然村で、日本と同じように地名があり、村委員会という自治組織がある。行政の最末端区は郷・鎮である。

ク袋が散らかっている状況を目の当たりにしたからだ。衛生に対する意識改善をむら全体で図られなければならない、子供たちの衛生概念を変えなければならない、衛生的な環境で子供たちを学ばせたい、との思いが募った。ただ、何が必要でどのようにしたら状況を改善できるのか、すぐに取りかかれるような課題かどうか分からなかった。これまでの施設支援と違って、住民の生活習慣や学校の教育カリキュラムとも深く関わる複雑な問題との認識もあった、という。

協会は衛生改善についてどのような支援が可能なのか模索しつつ、ほかの NGO が実施する教育協力や国際協力機関の協力方法を調べてみることにした。協会会員で元 JICA 専門家として中国で活動していた安達さんや JICA（国際協力機構）の NGO 連携担当のアドバイスを得ながら、JICA 草の根技術協力事業として実施されている他国のプロジェクトも参考にした。

これまで協会が支援した校舎建設のように目に見える形で提示するのではなく、支援の結果として支援相手が変わる、ことが求められている。支援する内容も建設の資金を提供するのではなく、人の考え方や方法を提供する。しかし、衛生の問題について、むら人も学校もその必要性を十分認識している訳でもなさそうだ。こうして建設資金を提供する協力とは違う技術協力への挑戦が始まった。

2-2 「NGO 技術者派遣」の活用

協会は JICA の草の根技術協力事業を活用した衛生分野の協力を進めていく方針を決めた。しかし、協会内には公衆衛生分野の専門家はおらず、技術協力プロジェクトに関する知見を持つ人材が有している訳ではなかった。技術協力プロジェク

トに関するマネジメントの経験・蓄積も不十分だった。

一方、こういった課題を抱える NGO に対して外部人材を海外現場に派遣する「NGO 技術者派遣制度」²が JICA の草の根技術者事業プログラムの中にあり、協会はこの制度を活用する申請を行うことにした。

2007 年 7 月、協会は NGO 技術者派遣に必要な情報と専門家が実施すべき業務内容の枠組みを設定するために、現地政府や白雲小学校の関係者、現地家庭からの聞き取りによる予備調査を実施した³。

2007 年 10 月、協会本部の七田がプロジェクト担当となり、会員から紹介があった薄田⁴を派遣候補として「NGO 技術者派遣計画」⁵の準備を進めた。薄田は既存情報をもとに、派遣業務の内容、プロジェクト関係者のリストアップ、基礎調査で明らかにすべき内容の骨子を協会とともに作成し、基礎調査に必要な関係者ごとの質問票や衛生環境チェックシート、ワークショップ実施案などを提案した。

2007 年 11 月、JICA は NGO 専門家派遣⁶を正式に決定し、2007 年 12 月 2 日から 2008 年 2 月 6 日までの日程でプロジェクトの企画を目的とした基礎調査を行うことが決まった。派遣に先立ち、衛生環境改善の手段のひとつとしてバイオガス施

² 現在は「NGO 海外プロジェクト強化のためのアドバイザー派遣制度」と呼ばれている。

http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/ngo_project/index.html

³ 20070716 衛生環境調査報告（日本雲南聯誼協会）

⁴ 有限会社クランベリー、保健医療開発コンサルタント

⁵ 専門技術者派遣計画書（日本雲南聯誼協会）

⁶ この JICA の制度では、NGO 外部からの専門家派遣の場合、NGO スタッフの調査業務能力向上も目的としている。

設⁷の可能性を検討するために、昆明で活動する日本の自然エネルギー推進市民フォーラム REPP (Renewable Energy Promotion People's Forum)⁸を協会に招いて事前の勉強会を行った。

2-3 基礎調査の実施

基礎調査の目的は、プロジェクトの企画と実施に必要な対象グループと地域、組織体制、関連セクターの基本的な情報を分析し、プロジェクト企画に必要な情報を抽出・整理することにある。プロジェクト実施を想定した場合、学校内の子どもたち、教師のほか、保護者や村委員会、衛生院などを対象グループとして考えることができる。関連セクターとは、学校の保健衛生全般に関わる方針の決定や費用、技術・方法などに関連する領域全体を意味する。

2007 年 12 月、北京にある JICA 中国事務所に基礎調査業務の進め方⁹とプロジェクト企画案の採択プロセスについて中国国内担当と打ち合わせた後、昆明の協会雲南支所に移動し、調査計画の内容を雲南支部の林（リン）と確認した。

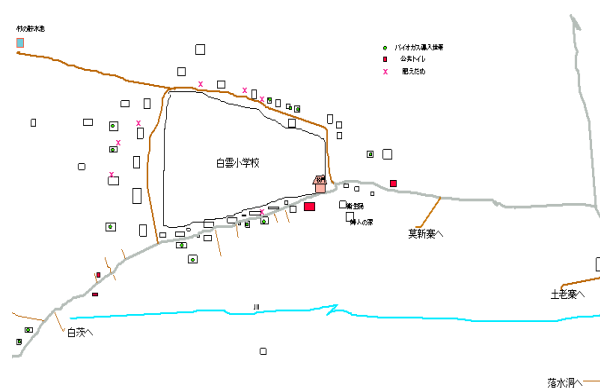
中国側は学校建設で協力関係にある華僑連合会が受け入れパートナーとなり、フィールド訪問に必要な車両の提供や現地との日程調整に協力してくれた。調査の前半は学校の保健衛生上の課題・ニーズを抽出するために、関係者からの聞き取りや参加型ワークショップ、施設アセスメントを通じて、概要を把握した。また想定されるプロジェ

クト実施関係者として、衛生院¹⁰や中心学校¹¹など、間接的な組織・団体からも聞き取りをおこなった。



マッピング：白雲むら

短期間に水供給や衛生状況を把握するアセスメント手法として、小学校教師や村委員会と一緒に手書きの図面上に校内の問題箇所を書き入れる校内施設マッピングや周辺の水源やゴミ捨て場などを書き入れる村落マッピングを行った。



マッピング：白雲むら

また白雲むら村委員会と白雲小学校教師、盆科鎮中心小学校校長らの参加を得て、白雲小学校でワークショップ形式による討議を行った。ワークショップはプロジェクトの構想を検討する場でも

⁷ 豚や人の糞尿、野菜くずなどを専用槽で発酵させ、得たメタンガスを熱源に使う。雲南省では農家を対象に槽やガス釜、電灯などをセットにしたバイオガス施設の普及が奨励されている。

⁸ http://repp.jp/component/option.com_frontpage/Itemid.1/

⁹ NGO 技術者派遣業務計画書（薄田）

¹⁰ 予防と医療行政・サービスを担う保健局の末端サービス機関で、予防接種や母子保健サービスを提供する。中心学校と同じ行政レベルにある。

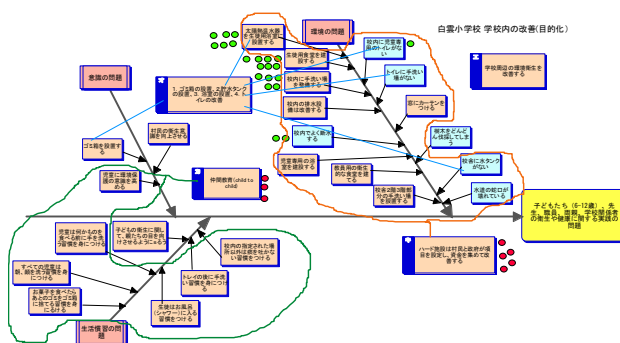
¹¹ 複数の小学校のモデル校で鎮レベルにある小学校。管轄下の学校の教育予算やカリキュラムなどの管理も行う。

あるが、参加者のプロジェクトに対する関心や態度、関係者間の力関係などを把握する機会でもある。



ワークショップ風景：白雲小学校

下図は、ワークショップ結果の一部である。子供たちの衛生問題がどのような原因で問題なのか、話し合いながら、因果関係¹²—「魚の骨図」の作成を行い、最後に参加者にもっとも重要と思われるものに投票してもらった。下図の例ではそれぞれの投票はカードに横に置かれた赤や緑のシールで示されている。



参加者の認識—魚の骨図：白雲小学校の例

課題解決や改善のためのアプローチ¹³を検討す

¹² 因果関係への認識であって、厳密な論理を議論しているのではない。

¹³ アプローチとは問題解決のための構想段階での方法という意味で使っている。アプローチを組み合わせ・吟味して、政策、戦略、プロジェクトへと練

るワークショップで、次のような3つの重要な事項が明らかになった。

一つ目はプロジェクトを実施した結果が学校の問題解決に留まらず、継続的な取り組みとして、郷・鎮の中心小学校、県教育局、協会の支援する他の小学校にも働きかけるようなモデルが望ましいということだった。つまり幅広い関係者の関与と働きかけがないと活動継続の支持をえられず、広がりも生まれないということだった。

二つ目は、衛生の問題を施設の改善を求める傾向が参加者に強く、アプローチは衛生教育と施設改善の相乗効果を組み入れた包括的な切り口が望ましいということだった。

三つ目は、衛生に関するむらの大人の反応は鈍く、望ましい行動の形成を促す対象を、教師と高学年の子供たちに絞ることだった。特に宿舎で暮らす高学年の子供たちが低学年の子供たちのめんどろを見る生活上の役割や保護者への働きかけという点で重要な意味を持つことが示唆された。



ワークショップ風景：藤誼小学校

調査の後半からは、技術協力プロジェクトとしてより包括的なプロジェクトとなるよう、これまで協会が支援してきた学校の中から衛生上の問題を抱える地域の代表的な小学校である藤誼小学校り上げる。

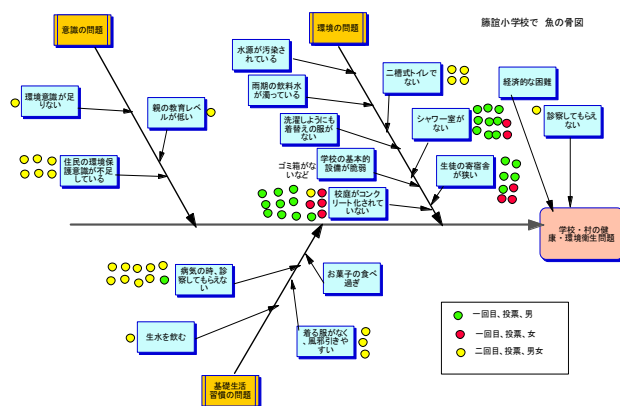
14と果科小学校15を調査対象に加えた。

これはプロジェクトをより多くの対象者と関係者に広げることによって、成果が多くの人々に活用できることを狙ったこと、またプロジェクトに対する関係者の支持を得るために、組織的な支持と地域的な広がりを考慮してのことだった。簾誼小学校と果科小学校についても白雲小学校と同じように周辺関係者の聞き取りや教師たちを対象としたワークショップを行い、課題とアプローチを抽出した。



ワークショップ風景：果科小学校

ワークショップでは、この問題はなぜ起こるのか、あるいはこの問題がどのような結果をもたらしているか—という問いかけを行いながら、カードで議論の内容を記載していくという方法で進める。下図は、簾誼小学校で行ったワークショップの結果を示したもの。



参加者の認識—魚の骨図：簾誼小学校の例

上記の魚の骨図のほか、簾誼小学校と果科小学校のワークショップでは、小学校の水源や子どもを対象とした医療サービス、共同トイレ、ゴミ捨て場、近隣村への距離などを示したマッピングと季節の病気・けがと農作業を図式化した季節カレンダーを作成した（下図）。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
天候	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀
作物												
稲												
トウモロコシ												
そば												
ジャガイモ												
病気、ケガ												
風邪												
下痢												
腹痛												
洗水												
ノミ・ダニ												
ゴキブリ												
ネズミ												

参加者の認識—病気と季節カレンダー：簾誼小学校の例

さらに、県疾病対策センターや教育局などの重要な機関のほか、雲南省内でどのような先行的な取り組みがなされているのか、婦人連合会などの推薦をたよりに先進地域での聞き取りと視察を行った。

それまでの調査内容とそれを反映したプロジェクト構想¹⁶を雲南省華僑連合会、さらには協会本部と共有し、提案可能なプロジェクトの企画案を

14 怒江州福貢県架科底郷阿達村。リス族が多い。

15 怒江州福貢県匹河郷果科村。独龙族・怒族が多い。

16 1015 プロジェクト構想（薄田）

提案した。

2-4 プロジェクト計画

2008 年 4 月、基礎調査の結果は、保健衛生プロジェクト基礎調査報告書¹⁷としてまとめ、協会に提出した。この報告書には、対象小学校と周辺地域の現状と課題、中国側の取り組み、関連する組織や体制（利害関係者）、プロジェクトの企画案が記載されている。また、プロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)や活動スケジュール案、プロジェクト人員配置案をプロジェクトの付属書として添付した。PDM とは、いわゆるプロジェクトの設計図で、(1) プロジェクト実施によって改善や問題解決が図られる人々のプロファイル、(2) 対象地域、(3) プロジェクト期間、(4) プロジェクト目的、(5) プロジェクトの実施が貢献するであろう長期目標、(6) 成果（期待される変化）、(7) 目的や成果を検証するための指標、(8) 目的を達成するために求められる活動の内容、(9) 投入（人や費用など）、(10) 監視すべき外部要因を、ひとつの表に記述したものである（9 付録：プロジェクト・デザイン・マトリックス参照のこと）。

プロジェクト案は、白雲小学校、簾誼小学校、果科小学校の 3 つの小学校一生徒数 630 人と教師 50 人、それらの学校圏の人口 14,428 人を対象¹⁸として「小学校の健康・環境衛生に対する対処能力が高まる」という状態を実現するために、以下の結果をプロジェクト期間 2 年以内にもたらすとい

うものだった。

- (6) 教師・学校保健関係者の健康と衛生に関する実践的な指導能力が高まる（教師の衛生教育研修を通じて）
- (7) 小学校 5・6 年生の健康・環境衛生に関する対処能力が高まる（パネルシアターなどを用いた仲間教育プログラムをこどもたちが実践することによって）
- (8) 小学校の衛生環境向上のための施設が改善される（貯水槽設置・改善、手洗い場設置、共同トイレ改善、太陽熱温水器・シャワー室を設置することによって）
- (9) 健康と衛生に関する小学校と小学校圏の住民との関係が構築される（子どもたちによるポスター啓発、イベント開催をすることによって）
- (10) 小学校の健康と環境衛生プログラムを支援する資源センターが構築される（本プロジェクトの成果の公開、ニューズレター発行を通じて）

企画ではプロジェクト対象は白雲小学校に加えて、協会が支援する簾誼小学校と果科小学校を直接的な介入対象として位置づけた。

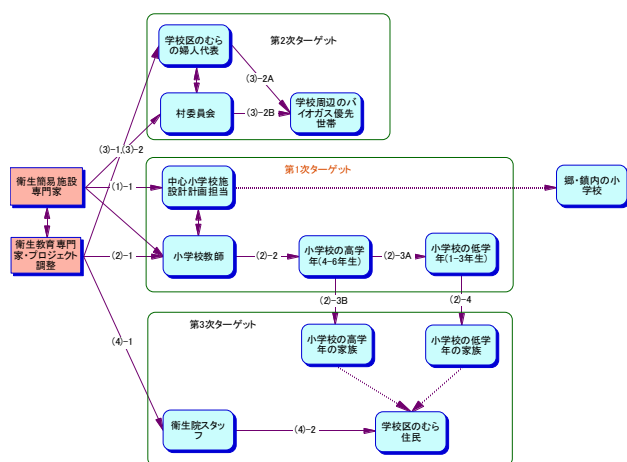
さらに衛生教育に関して地域の組織的・継続的な取り組みが図られるよう、それぞれの小学校を管轄する鎮の中心小学校・・建水県岔科鎮岔科中心小学校、福貢県匹河郷匹河中心小学校、福貢県架科底郷遠福中心小学校を研修対象に加え、上位機関の関与と協力関係の維持を活動の中に加えた。県教育局にも活動内容を紹介し、研修参加を働きかけるものだった。

衛生の問題を施設の改善に求める傾向が中国関係者に強く、また手洗い場がないなど施設上のボトルネックの解決を図るために直接対象 3 校の施設改善をプロジェクトの内容に組み入れた。下図

¹⁷ 保健衛生プロジェクト基礎調査報告書（薄田）

¹⁸ 小学校の施設改善の対象となった小学校はこの 3 校であるが、教師の衛生教育研修はそれぞれの小学校を管轄する中心小学校も対象に入っている。これらの中心小学校は、岔科鎮中心小学校（白雲小学校を管轄）、遠福中心小学校（簾誼小学校を管轄）、匹河中心小学校（果科小学校を管轄）

の働きかけの構造化プロセスは、プロジェクトの介入によって子供たちと教師を中心に学校からの衛生活動改善が広がる様子を図式化したもの。



働きかけの構造化プロセス

一方、記述したように衛生に関するむらの大人の反応は鈍く、彼らを対象に直接的な働きかけは難しいと判断し、企画案では学校という現場から、プロジェクト活動を通じて彼らに衛生の問題を働きかけるアプローチを採択した。実際には高学年にポスターなどを描いてもらい、子供たちとのコミュニケーションを通じて衛生環境への意識を向上させることだった。また、バイオガス施設の建設を通じて衛生と環境に関する理解を醸成するよう籐誼小学校にバイオガス施設の設置を組み入れた。

2008 年 6 月、協会は基礎調査の企画案をもとに、PDM や業務従事者配置計画¹⁹、経費積算・内訳書²⁰から構成される事業提案書（プロジェクトの計画案）を JICA に提出し、JICA 草の根技術協力事業（草の根支援型）として採択されるため

の審査を待った。このとき、プロジェクトの正式名「雲南少数民族地域での学校を中心とした健康・環境衛生改善プロジェクト」に加え、プロジェクトの主旨を象徴的に表現し、誰からも受け入れられやすい愛称「100 万回の手洗いプロジェクト²¹」をプロジェクト計画案に盛り込んだ。2008 年 12 月、中国政府と正式に協議する事業として「100 万回の手洗いプロジェクト」が JICA 側の内定を受けた。

2-5 プロジェクトの採択

基礎調査の段階では、雲南省華僑連合会が、プロジェクトのパートナーとして、協力関係にあった。しかしながら、草の根技術協力事業として中国政府の承認を得る段階になって、雲南省僑務弁公室がより適切なパートナーとなることがわかった。

雲南省華僑弁公室は国外の華僑や団体との交流を調整する組織であるが、雲南省僑務弁公室は中国行政の最高執行機関に直結する雲南省行政のトップ機関である。2009 年 4 月、プロジェクトの採択に関する議事録が JICA と中国科学技術部の間で正式に結ばれ、同年 5 月より、実施の運びとなった。



¹⁹ プロジェクトチームメンバーそれぞれがプロジェクト活動に従事する時間を週または月単位で示したマトリックスで、計画と実績を記載する。

²⁰ プロジェクト経費を施設改善経費や海外活動経費、国内活動経費などに仕分けし、実際の経費をモニターするもの。JICA 書式があり、提出が義務づけられている。

²¹ 対象小学校の生徒が毎日 2 回、365 日手洗いを 2 年間継続すると約 100 回になることから、「100 万回の手洗いプロジェクト」とした。たくさんの人々に広がってほしい、ひとりひとりが生涯続けてほしいという意味も込められている。

3. プロジェクト実施の体制と管理



パネル人形：第1回昆明の教師研修にて

プロジェクトを実施するには、予め設定した目標に対する実績を監視し、関係者との調整や活動のための人員配置、必要となるプロジェクト費用の支出を通じて、活動の進捗を管理することが求められる。誰がいつどのような役割と責任を持つのか、さらには役割・責任を持つ個人・個別の組織がどのように連携を図るのか、プロジェクト実施のための管理と調整・協力を行う暫定的な体制をプロジェクトの実施体制と呼ぶ。

日本雲南聯誼協会はプロジェクトの直接管理を行うが、同時にプロジェクト関係者の関係維持と協力を求めて、実施体制を維持する。ただ、技術協力プロジェクトの成果は、対象となる人々・教

師、児童、地域住民の中に築かれるのであって、プロジェクトを実施する側にある訳ではない。



プロジェクトの連携イメージ

ゆえに、プロジェクトの進捗管理はもとより、得られた成果を報告する説明責任は、協会関係者、JICA、中国政府、広く一般に対しても負うことに

なる。

プロジェクト実施に関する中国側政府の協力機関は記述したように雲南省僑務弁公室である²²。僑務弁公室は、各県の下部組織を通じて中国側の教育局や学校の協力を維持する調整役を担う。また雲南省で小学校の環境教育とバイオガス普及に実績のある現地 NGO・雲南エコ・ネットワーク²³が、バイオガス施設の技術面でプロジェクトに協力する。

プロジェクトによる直接的な施設支援と教師研修を通じて、各学校の教師と子供たち、さらには住民たちが、衛生活動を進めることが期待されている。これが技術プロジェクトの成果イメージである。

3-1 プロジェクトチーム

協会はプロジェクトを JICA との委託契約²⁴のもとで実施する。そして直接的な運営と管理の実務を担うのが協会のプロジェクトチームである。プロジェクトチームはプロジェクト・マネジャー（薄田協会会員）、協会本部の会計・調整担当（七田/山田協会スタッフ）、雲南支部（林協会スタッフ）、衛生教育専門家（斎藤専門家）で構成される。

²² 学校保健という分野が保健と教育の両方にまたがるため、しばしば保健局と教育局のどちらがパートナーとして相応しいかということが起こる。そのどちらでもない僑務弁公室がパートナーとなったのは、(1)学校建設支援を通じてもともと協会と弁公室の間に信頼関係があった、(2)最高行政機関として保健局、教育局のどちらにも影響力がある、(3)少数民族地域を対象にしているという特殊性があり、より高いレベルでの認知と支持が必要だった、(4)プロジェクトそのものがどちらにも関わる活動を実施するので、より包括的な影響力を実施できる機関が望ましかった、という理由による。

²³ エコ・ネットワーク <http://www.yen.ngo.cn>

²⁴ 草の根技術協力事業（草の根協力支援型）業務委託契約書（協会・JICA）

雲南省僑務弁公室はプロジェクトチームとともにプロジェクトの実施責任と下部関係機関との調整を担う。上位組織として僑務弁公室の権威なしには、プロジェクト活動は立ちゆかない。しかし、僑務弁公室プロジェクトの内奥に関して専門的で小回りの効く人員を有している訳ではない。プロジェクトチームが活動のイニシアティブを執り、その進捗を把握するために、独自に建水県・福貢県の教育局、対象小学校と調整する必要もあった。

このため、プロジェクトチームは関係者への有効な働きかけとなるよう訪問時に交わした訪問メモなどを分析し、四半期ごとに（派遣時）、目的と関係者別のアクションをリストアップした四半期活動計画書を作成し、対応を図った。帰国後、四半期活動実績報告書を作成し、協会本部に報告するとともに、協会のブログや会報、年次総会を通じて会員に情報提供を行った。

こういったプロジェクト活動の概要は四半期ごとの進捗状況表（モニタリングシート²⁵）や派遣実績、プロジェクト支出実績の書式を使って JICA にも報告した²⁶。

3-2 プロジェクト管理ツール

プロジェクトの実施管理の拠り所が PDM である。PDM はプロジェクトの設計図として契約に添付されるが、プロジェクト活動を方向づける管理ツールでもある。プロジェクト管理ツールとは、PDM をはじめ、プロジェクトの進捗を把握、分析、整理、記録するための書式・方法・手順・約

²⁵ モニタリングとは目標や活動の進捗状況をプロジェクト内容や指標をみながら、必要に応じて調整と修正を行うこと。モニタリングシートはモニタリングに必要な項目を書き記すための書式である。

²⁶ 草の根技術協力事業 実施の手引き①&②2009 年度版（JICA）

2009 年度活動報告書

束といえる。

PDM (プロジェクト・デザイン・ワークショップ)		平成 21 年 6 月 23 日作成
主催：(実施団体) 富士宮保健福祉学院の保健士と先生・保護者生活者プロジェクト (2009 年 4 月～2011 年 3 月 2 年間) 100 名以上の学生・プロジェクト 対象地域：中国河南省 鄭州市惠康福利中心(盲聾小中学校併設校)、扶輪会直轄河南惠康中心(聾小中学校併設校)、殘障・聴覚・視覚復元施設本部送付所(聾盲・小中学校併設校、中国河南省)		
参加者数：(ターゲットグループ) 3 学年級合計 14,142 人、小・中学校の生徒数 6,300 人、教師・学校保健担当者 50 人		
プロジェクト事例 (Narrative Example)	指標 (Objectively Verifiable Indicators)	外部条件 (Important Assumptions)
上位目標 Overall Goal 1 学生・教師の健康と生活の質の向上 教育を通じて、 取り入れる 小・中学校の生徒が健康に生活する能力を 知能・態度・行動・技能に開くのを待つように になる。	(1) 対外的に学校校内外での運動活動と 取り入れた知識、技能と自己認識 (2) 小・中学校の環境、住居の状況に関する 知識、態度の変化	健康と生活の質と教育資源、教育環境 に関する知識、理解と教育資源
プロジェクト目標 Project Purpose... 1 小・中学校の保健士に対する関係 的知識の向上	1-1 小・中学校の保健士が健康・生活・ 行動に関する 30% 増加 2 学校保健スタッフの組合員参加 率 70% 以上 3 自分自身と同様に同僚・同僚たちも 健康・運動能力に対する知識・技能を 身に付ける参加者が 50% 以上	1-1 各教師によるアセスメント (活動 目標) によるモニタリング 2 ユニークなによるモニタリング 3 教師による手当てメント (結 果目標)
成果 (Output) 1 教師・学校保健担当者の健康と生活に 関する実質的行動能力の向上	1 仲間関係プログラムで育成した、5-6 年生のリーダー層 2 健康と生活に関する知識・能力・態 度・健康に関するネットワーク、または 小・中学校の保健士 3 教師自身の健康、生活指導に関する 自己満足度と参加者の 50% 以上が 参加した	1 教師の配置計画に大きな変化はない。 2 教師が導入されるプログラムや教材 に対する理解と能力がない

PDM

プロジェクトでは、この PDM をもとに、人員配置の計画日数と実績日数を記録した配置計画実績表と活動ごとの計画と実績を記録する活動スケジュール、その他の書式を用いて、四半期ごとに進捗状況を記録した。

3-3 昆明でのモニタリングと調整

プロジェクトの進捗を把握し、問題があれば修正することをプロジェクトモニタリング（進捗管理）という。プロジェクトチームが派遣されていない期間のプロジェクトの現地のモニタリングは、昆明の協会雲南支部と雲南省僑務弁公室に委ねた。雲南支部は東京からの問い合わせや指示に基づいて、内容の確認や関係機関との調整を図った（5・2 日本・雲南聯誼協会雲南事務所 参照のこと）。

雲南省僑務弁公室は、建水県帰国華僑連合会と建水県教育局、福貢県統一戦線部と福貢教育局を通じて、教師の衛生教育研修の期間、内容、場所、日程などに関する必要な手続きと施設建設に関する手続きなどの調整を行った（5-3 雲南省弁公室参照のこと）。

3-4 活動地のモニタリング

プロジェクトの実質的な活動地は昆明と建水県（白雲小学校）、福貢県（藤誼小学校、果科小学校、匹河中心小学校、遠福中心小学校）の3地域である（活動地の教育局・小学校などの活動については、5-4～5-11を参照のこと）。



プロジェクトの対象地域（協会支援校）

このうち、小学校の施設改善を行うのは協会が支援した白雲小学校、籐誼小学校、果科小学校（プロジェクト途中で果科小学校の施設改善は行わないことになった。第Ⅱ四半期活動参照のこと）である。



プロジェクトの立ち上げ：白雲小学校にて

活動地の訪問モニタリングは、主に施設改善の

状況と研修の実践に関する事項を確認するためである。原則として四半期ごとに訪問し、対象小学校だけでなく、各県教育部、県統一戦線などの関係者も訪問し、活動状況について視察と意見交換を行った。



怒江行き夜行バスのパンク修理：六庫付近

プロジェクトの対象小学校は、通信・アクセス共に困難な遠隔地にあり²⁷、なるべく現場で集中的に課題を話し合い、課題に対する方向づけや必要な決定を行った。しかし、活動の大部分は現地の自主的な姿勢と判断に委ねられている。



²⁷ 福貢まで夜行バスを使い、その後は現地の自家用車を手配する。一回のフィールド訪問で、最低往復で4日必要である。

4. この1年の活動－四半期ごとの進捗状況



子供たちから子供たちへ：白雲小学校にて

プロジェクトでは3ヶ月ごとに四半期活動報告書を作成する。2009年4月から2010年3月までの活動を第1四半期～第4四半期までに分け、進捗の変化を追うことにする。

4-1 第Ⅰ四半期（2009.5-6）

(1) プロジェクトの立ち上げ

最初の3ヶ月はプロジェクトの立ち上げ期にあたる。プロジェクトチーム内で共有すべき活動モニタリングシートやJICA提出用の各書類²⁸、手

²⁸ プロジェクト開始時にはプロジェクト概要や関

順、プロジェクト資料、連絡体制などを整理し、必要な管理ツールをこの期間に準備した。

2009年5月27日、東京でのキックオフ会議²⁹で、プロジェクトの実施と管理の方法、緊急連絡体制などをJICA地球ひろばNGO連携課・中国事務所と共有した。

第1回目の現地派遣をJICA草の根事業モニタリング調査と同時期になるよう6月1日から14日までのスケジュールで設定した。JICAの草の

係者連絡網のほか、英文・中国語のプロジェクト概要や実施スケジュールなどを作成した。

²⁹ プロジェクト開始時にその進め方と運営方法について再確認するための会議。

根事業モニタリング調査は、JICA 地球ひろばと北京の JICA 事務所が共同で中国国内の草の根技術協力事業の現況を確認するもの。100 万回の手洗いプロジェクトも基礎調査から 1 年半が経過しており、中国側のプロジェクト関係者と提案プロジェクトの基本計画や活動計画スケジュール、連絡体制、施設仕様について、再確認する必要があった。



フィールド訪問：白雲小学校にて

2009 年 6 月 10－11 日、プロジェクトチームと JICA 調査団は建水県の白雲小学校と建水教育局の訪問し、今後のプロジェクトに関する協力事項を確認することができた。このとき、教師のための衛生教育研修で導入するパネルシアターとペーパーサートのサンプルを関係者に披露し、研修内容の概要を共有した。



ペーパーサートサンプル：川の汚染と生物濃縮を表現

もう一つの訪問地である怒江の福貢県統一戦線工作部や教育局、各学校ともプロジェクト内容と活動スケジュール、協力体制を確認する必要があ

ったが、雨による道路寸断などのため、福貢県の視察・訪問は諦めざるをえず、プロジェクト概要については雲南支部を通じて調整連絡を図ることとした。

現地訪問後、プロジェクトチームは昆明で僑務弁公室とプロジェクトの内容、スケジュール、役割などについて打ち合わせることができた。また雲南エコ・ネットワークともプロジェクトの実施に関する協力関係の確認を行った。



キックオフ：昆明の僑務弁公室にて

(2) 水と衛生セミナー

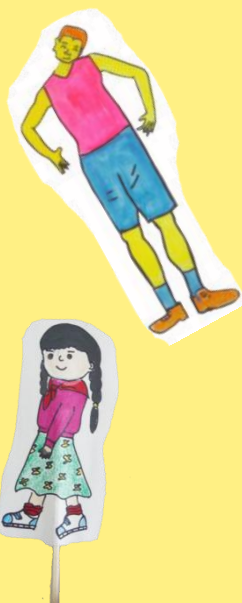
2009 年 6 月 25 日、JICA 地球ひろばが主催する「開発課題への草の根アプローチ：水と衛生」セミナーにプロジェクト・マネジャーがプレゼンターとして迎えられた。開発課題とは途上国の発展や問題解決につながる主要テーマのことで、援助・協力の方法、関係者の連携、適切技術など共有すべき内容が多い。セミナーの目的は水と衛生というテーマに関与する団体、JICA 職員、個人が意見交換を行うというもの。

セミナーでは 100 万回の手洗いプロジェクトのほか、日本下水文化研究会が実施するバングラデシュでのトイレ普及プロジェクト、JICA 国際協力専門員による JICA プロジェクトの経験が発表

され、地球ひろば会場のほか、テレビ会議中継で JICA 大阪とも結び、質疑応答が参加者間で交わされた。このセミナーでもペープサートを紹介した。

ト、協会ホームページを通じて一般会員に報告した。また、JICA 第 1 四半期報告書、第 1 回派遣報告書にまとめた³⁰。

パネルシアターとペープサート



パネルシアターとは、不織布の上に色ぬりした登場人物や背景の絵を動かし、ものがたりを上演する「動く紙芝居」である。様々な動き－裏返しで方向転換、糸止めで関節の動き、ポケットからの取り出し－で、登場人物の個性を強調でき、見る人を引きつけることができる。

ペープサートは日本生まれの内輪型紙人形劇で、江戸時代の芸能が源流とされる。絵を描いた紙に棒を付け、動かしながら話をする。道具が簡単で場所を選ばず、反転や回転などのダイナミックな動きで、以外と表現範囲が広い。

(3) 石けん収集運動

2009 年 6 月 21 日、協会定期総会で参加会員へのプロジェクト概要の説明を行った。その際、たまがわロータリークラブより、100 万回の手洗いプロジェクトのために、現地に石けんを送る運動を行う申し出があった。しかしながら、収集した石けんの送料の問題や不十分なスタッフの問題、プロジェクトでの位置づけを明確にできなかったこともあり、具体的な活動を伴う運動までに至らなかった。

(4) 記録と報告

この期間の活動を、定期総会、メーリングリス

4-2 第Ⅱ四半期（2009.7-9）

第Ⅱ四半期は第 1 回目の教師への衛生教育研修を実施し、白雲、籐誼、果科の各小学校の衛生施設の改善に着手する期間である。

小学校の教師が夏休みとなる 2009 年 8 月に照準を定め、研修のための保健教育専門家の選定とボランティア等の確保を行い、準備した研修計画に基づき研修を実施した。また各小学校に給水・手洗い場の設置、シャワー室の設置、トイレ改善の仕様や見積もりの最終確定を行った。

³⁰ 第 1 回派遣帰国報告書（薄田）。この報告書は JICA のモニタリング報告書を含んでいる。

(1) 派遣前準備

2009 年 7 月、第 2 派遣時に行うべき活動に係者別³¹、成果別³²に整理し、第 2 回派遣活動計画を作成した。当期派遣の中心活動となる衛生教育研修の事前準備として、研修計画案のほか、配布資料やペープサート、パネルシアターのサンプルの作成を行った。また JICA パートナー³³の募集を通じて、健康・衛生教育専門家の公募を行ったところ、6 人の方々が関心を示し、2 人が面接に至った。斎藤順子さんを健康・衛生教育専門家として選定するとともに、弓削田裕子さんを本人の希望によりインターンとして受け入れることとした。新しく参加した専門家の方々を交え、昆明で行う教師の衛生教育者研修の準備を東京本部で行った。



研修の準備：東京本部にて

(2) 教師研修のリハーサル

第 2 回目の派遣を 8 月 6 日から 9 月 4 日までの日程で計画し、プロジェクトチームは順次昆明入りした。弓削田夫婦がそれぞれインターン・ボランティアとして、8 月 11 日から 20 日までの間、教師研修のリハーサルと研修に参加した。

³¹ プロジェクトの実施に関与する個人や団体

³² PDM にあるアウトプット（成果または結果）のこと。

³³ JICA が運営する国際協力キャリア総合情報サイト

研修の準備作業として、研修概要や時間割、注意事項、理解度テストなどの資料を準備しつつ、事前に用意した研修用資材購入リストや会場準備チェック表などを活用し、参加者の宿泊の手配と会場の準備を行った。また教材となるポスター、パネルシアター、ペープサートの研修用サンプルの制作や手洗い効果の実習に使う寒天培地を雲南支部の電子レンジを使って作成した。粉末培地は日本から持参したもの。



培地の作成：雲南支部にて

研修の進め方と内容を記載したシナリオ「テーマ別進行と支援指導要領」をもとに、雲南エコ・ネットワークから派遣してもらったスタッフとボランティアを参加者役として、4 日間のリハーサルを雲南支部で行った。



リハーサル：雲南支部にて

雲南エコ・ネットワークから6名が8月13日（木）－15日（土）まで研修リハーサルに参加した。うち、2名はエコ・ネットワークの職員で、4人はエコ・ネットワークを支援する大学生だった。このほか、男性の通訳ボランティア1人が1日のみリハーサルに参加した。リハーサルを、実際の研修とほぼ同じスケジュールで行い、ポスター作成やロールプレイ³⁴、ゲーム³⁵、ブレインストーミング、パネルシアター作成、ものがたりづくりと演出、手洗い実演などを実際の場面を想定しながら、準備を進めた。リハーサル終了後、参加者としての感想を聞き、彼らの提案を研修シナリオに反映させる方法で、研修本番に備えた。また、研修でのボランティアの役割、テーマ毎に例として実演してもらうロールプレイやゲーム、発表のやり方等を確認した。



リハーサル：雲南支部にて

本番の研修では、ボランティアは参加者（教師）と講師の媒介役として、進行を補助する役割を担ってもらった。また撮影記録やサンプルとして見ってもらう物語の役など、プロジェクトチーム内の役割分担も確認した。

³⁴ 役割演技ともいう。擬似的な状況設定と人物の役割を演ずることによって、現実の近い体験と練習を行うことができる。

³⁵ 緊張をほぐし、リフレッシュさせるため。



ペーパーサートサンプル：雲南支部にて

(3) 第1回教師のための衛生教育研修

プロジェクトチームは第1回教師のための衛生教育研修を、8月17日から20日までの4日間、22名の参加者を迎えて僑務弁公室ホテル会議室で実施した。当初、福貢県と建水県の教育局に対して、35名を限度とした参加者リストを送付するよう僑務弁公室を通じて依頼していたが、白雲小学校の教師が急遽出席できなくなり、最終的には22名の参加者となった。



僑務弁公室長の挨拶：研修会場にて

第1日目は手洗いやゴミ捨て、身体の清潔などのテーマについて、知識のみならず、交流によって行動へとつなげていく体験型の『保健と衛生』授業としてポスター作成を取り上げた。簡単な描画法やコラージュの方法、言葉の組み合わせを考

2009 年度活動報告書

えるためのブレインストーミングを通じて、ポスター作成プロセスを全員が体験した。またポスターを介したコミュニケーションとしてロールプレイを実演し、グループごとの発表を行った。参加者全員が自分のポスターを作成した。このポスターは、子供たちが描いたものを保護者や村人たちに直接みせて、直接のコミュニケーションを通じて衛生改善の意義を感じてもらおうというもの。



ポスターロールプレイ：第1回研修

研修では中国の手洗いの6ステップを実際にやってみる実習と手洗い前後の効果を観察するための寒天培地を使った細菌培養を試みた。



手洗い実習：第1回研修

第2日目は、子供たちが生活の場で保健と衛生に関する望ましい行動を実践するよう、子供たち

の課外活動を支援する方法として、ペープサートを紹介した。研修ではグループ毎にテーマと物語を決め、登場人物、台詞などの例を参考にしながら、必要な絵を分担作成し、4グループがそれぞれ作品を発表した。



雑誌等から教材をつくる：第1回研修にて

またプロジェクトチームとボランティア・チームのペープサート発表も行った。手洗いに関する理論的な裏付けとしてパキスタンでの手洗い効果研究³⁶や中国での事例を紹介する講義と寒天培地による手洗い実験結果の検証をおこなった。



ペープサート発表：第1回研修にて

³⁶ Stephen P Luby : “Effect of handwashing on child health : a randomized controlled trial, *Lancet* 2005 ; 366 : 225-233”

第 3 日目は、『保健と衛生』授業のみならず、物語や授業をより動的で視覚的に見せる方法としてパネルシアターを紹介した。ペープサート同様、グループ毎にテーマと物語を決め、登場人物、台詞などの見本を参考にしながら、必要な絵を分担作成し、グループごとに発表を行った。4 グループの発表に加え、プロジェクトチームとボランティア・チームのパネルシアター発表も行った。最後に学校保健というテーマで全体を俯瞰しつつ、パネルシアターやペープサートの位置付けを確認する講義をおこなった。



研修材料の振り分け：第1回研修にて



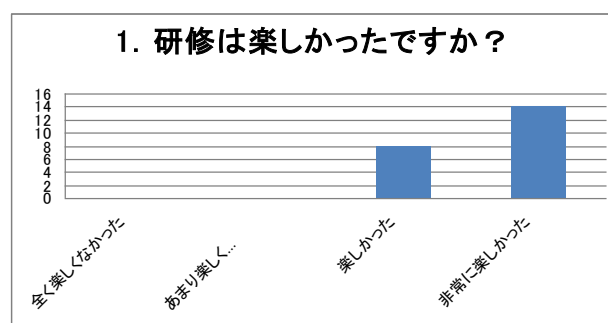
パネルシアター発表練習：第1回研修にて

グループの発表はどれも民族の歌を取り入れるなど地域にあった取り組みがなされ、楽しく学ぶという意図も十分理解された様子だった。後々参考にできるよう研修での様子と発表を録画し、DVD として配布できるようにした。

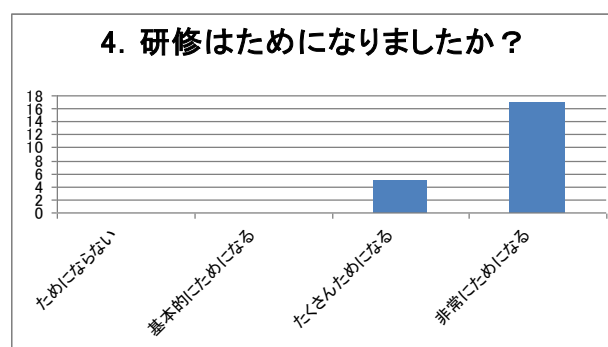
第 4 日目は、参加者の研修成果として学んだことをそれぞれの学校で実践してもらうために、学校別のグループに分かれ、プロジェクトとして何を実践して欲しいのかを学校ごとに確認した。また、研修の総括として口答による理解度テスト(再認テスト)と筆記による研修評価を行った。

(4) 研修の評価

研修に参加した 22 名の質問票に対する記入回答によると以下のグラフに示すように全員が研修は楽しく有意義なものだと回答している。

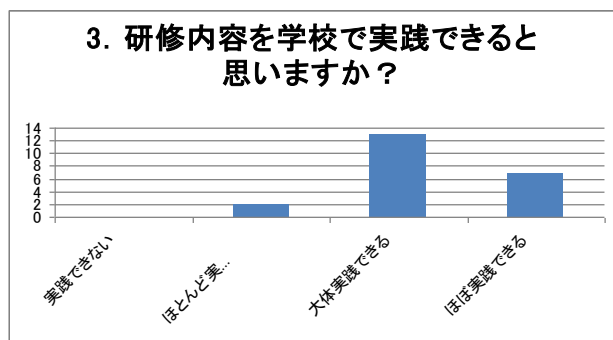


研修はためになったかどうかという質問に対しても全員がためになったと回答している。



また研修で学んだ内容が自分の学校現場で実践できるかという問いに対してもほとんどは実践できると回答した。どちらかというと実践できない

と回答したのは、2 人のみであった。



敢えて「困難」があるとしたらどのようなものか、質問票による回答とは別に定性的な意見を抽出する評価も行った。参加者全員にカードを配り、感想を書き込んで段ボールボードに貼ってもらう方法で、意見を訊いた。



研修定性評価：第1回研修にて

このボードを使った定性評価によると、以下のような課題が挙げられた。

- ・ 子供たちはすでに受身の習慣ができていますので、自ら何かをする能力が弱い
- ・ 材料がない、特にパネルシアターの紙
- ・ 子供たちはみな山村からきているため新しいことに適応するのが困難
- ・ このような方式の授業の実施には多くの時間が必要

研修の意義やポジティブな評価としては次のような事項が挙げられた。

- ・ 保健衛生に関する知識をたくさん学べた
- ・ 子どもたちにもとても受け入れやすいペーパーサートの知識と具体的使い方を学んだ
- ・ ロールプレイ方式によって授業を活性化できる
- ・ リラックスさせながらも楽しく調和させながら行う授業方法を学んだ
- ・ 手洗いの重要性と手洗い6ステップ
- ・ ペーパーサートもポスターもパネルシアターも実際の授業で使える



集合写真：第1回研修にて

参加者22名と4日以上出席したボランティアに協会と僑務弁公室名で修了書を授与した。



次項に、第1回教師で紹介した「元気村とインフルエンザ村」のあらすじを載せた。

元気村とインフルエンザ村

元気村はみんな元気。牛もまるまると太り、作物もりっぱでたくさん収穫できます。



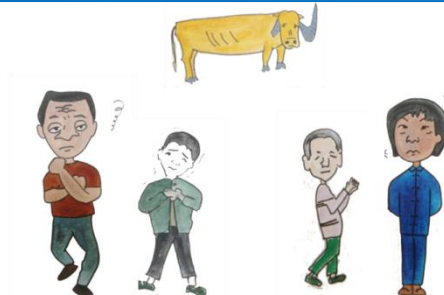
インフルエンザはなぜかみんな病気がち。牛もやせ、作物の収穫が少ない。



父さん、どこか具合わるいの？



今日も下痢したよ・・・。



元気村から作物を盗むつもりで入ったインフルエンザ村のむらびと。ところが、彼らが目にしたのは子供も大人も手洗いやゴミ捨て、シャワーなど身の回りを清潔に保つ習慣でした。

手を洗って、きれいに整頓しているから下痢などの病気が少ないんだ！病気が少ないから、みんな働けるんだ。だから、作物もたくさんとれるし、牛も太っている。我々も、元気村を見習おう！



(5) 白雲小学校への出張研修

昆明での第1回教師のための衛生教育研修に白雲小学校の教師が参加できなかったため、急遽、新学期が始まる直前の土日（8月29日～30）を利用した短縮版の研修を白雲小学校で実施した。ただし、盆科鎮盆科中心小学校からの参加はなかった。



出張ボランティア：白雲小学校

内容はポスター作成、パネルシアターとペーパサートの作成、手洗い法の実践と背景理論などをプロジェクトチームと2人の中国人ボランティア（雲南エコ・ネットワーク1人、その友人）で行った。8名の教師が参加したものの、新学期が始まる直前だったので2日間の全スケジュールに参加したのは4名のみに留まった。



出張研修：白雲小学校

この出張研修でも、昆明の研修評価標と同じ質

問票を用いて研修の評価を行った。回答結果の分析によると研修参加者8人全員が研修は楽しく、理解できたと回答しているものの、そのうち2人はあまりためになっていないと回答した。研修参加の態度や参加状況の観察から、質問票による研修評価よりも出張研修に対する参加者の評価はやや低かった。始業式前のあわただしい日程であったこと、研修時間が短かったため、説明の丁寧さが欠けていたこと、教師たちは同じ職場で働いている同僚であるためグループダイナミックスが不十分だったこと、相手の場所でやるためイニテチアチブが採りづらいことなどが理由として考えられた。

昆明での研修と白雲小学校での出張研修の様子を、「センセイがつくるキレイものがたり」と題した5分間の映像としてビデオ編集した。



先生がつくるキレイものがたり：ビデオ

(6) 白雲小学校でのフィールド活動支援

白雲小学校での出張研修の後、衛生教育専門家が小学校に残り、教師によるベースライン調査の実施と教師たちが行う衛生教育授業を支援する活動を行った。ベースライン調査は新5年生の2クラス、70名に対してWHOのGSHS³⁷に基づいた

³⁷ Global School Health Survey 地球規模学校保健調査。2003年に中国のいくつかの地方で実施されている。

アンケートを実施し、その場で解答用紙を回収した。



フィールド活動：白雲小学校

衛生授業については5年生2クラスに対するペープサートの作成と手洗い法の実施を教師に実践してもらった。その結果、9グループがペープサートセットを完成させた。



子供たちの作品：白雲小学校

新5年生のグループ別によるペープサートの発表と教師によるパネルシアター・ペープサートの発表が4年生を観客として校内で行われた。呼ばれなかった他学年の児童たちも教室の窓から覗き見るほど発表会は盛況だった。まず、生徒による代表3グループが発表した。ものがたりは外で遊んでいて手洗いをせずに食べ物を食べてお腹が痛くなり、病院に行くことになったというもの。



授業実践：白雲小学校

続いて教師によるペープサートの2つのものごたりの後、プロジェクトチームによる2つのパネルシアターの発表と教師による西遊記のパネルシアターが行われた。いつもとは違う教師の姿が子どもたちに新鮮に映ったのか、発表会は盛況だった。■



子供から子供へ：白雲小学校

(7) 福貢県の現地活動モニタリング

第Ⅰ四半期に行くことができなかった怒江州福貢県の簾誼小学校と果科小学校の施設改善の現況を視察し、再度、改善すべき施設仕様、見積もり等について福貢県統一戦線部・教育局担当と協議した。

2008 年 1 月の基礎調査時には果科小学校の給水槽が壊れており、プロジェクトで給水槽を設置する予定であったが、地元政府によってすでに給水槽と手洗い場が建設されたこと、また 6 年制の「完全小学校」に統合する政府方針にそって果科小学校の統廃合の決定が明らかになったため、施設改善計画の一部修正が必要となった。

基礎調査時に改善が指摘されていた簾誼小学校の貯水槽が手洗い場の設置や校庭のコンクリート化と共に教育局の借金によってすでに実行されていた。しかし、一方で簾誼小学校は福貢県架科底郷にある完全小学校として、周辺地域の分校の生徒を受け入れなくてはならず、施設改善は不十分だった。同校の役割機能を鑑みて他の施設改善（トイレ建設、太陽光温水器、手洗い場、シャワー室）に充当することが求められていた。このような理由から果科小学校の施設改修は中国側の方針と助言に従い、拡充方向にある簾誼小学校に施設改善に振り向けることとした。



建設された貯水槽と手洗い場：簾誼小学校

この第Ⅱ四半期に、遠福中心小学校と匹河中心小学校を初めて訪問した。訪問目的は研修参加者に配布した衛生教育活動用の配布材料を確認し、研修参加者が実施すべき小学校での活動を再確認することだった。また中心小学校の手洗い場やト

イレなどの衛生施設の状況を視察することも重要な訪問目的だった。



今後の活動を確認：匹河中心小学校

なお、中心小学校のプロジェクト効果を測定するために、匹河中心小学校の 5 年生に対しては、新学期が始まった直後にベースライン調査を実施するよう校長と担当教師に依頼した。

(8) 記録と報告

これらの活動は、メーリングリストと会報を通じて協会会員に報告した。また、この期間の進捗を第 2 四半期活動報告書（JICA の第Ⅱ四半期モニタリングシートを含む）にまとめた。

4-3 第Ⅲ四半期（2009.10-12）

第Ⅲ四半期は各小学校が新学期を迎え、研修で学んだ衛生教育の方法の実践を試みる期間である。また、施設改善内容にもとづいて各小学校は施設改善に着手した。

(1) JICA モニタリング会議

2009 年 11 月 6 日、協会と JICA 地球ひろば、

JICA 中国事務所との間でプロジェクトモニタリング会合を持った。会合は JICA-地球ひろばのテレビ会議室で行われた³⁸。プロジェクトの進捗状況、業務従事者配置計画の大幅な変更の有無、施設建設の進捗と変更の有無、相手側の同意を得てから進める内容、現地化の見込みなどを協議した。

(2) フィールドモニタリング

第Ⅲ四半期は日本からの派遣はなく、雲南支所が僑務弁公室と協力して、各小学校の施設改善に関する進捗を把握した。2009 年 11 月 16-18 日、雲南支部と雲南エコ・ネットワークと共同で、籐誼小学校の施設改善の進捗と教師たちの衛生教育活動をモニタリングした。バイオガス施設の設置場所や要求条件等に大きな問題はなかったが、安全面からコンクリート製の槽ではなく、当初計画どおり、プラスチック製のガス槽を設置することを確認した。



バイオガス施設の建設現場：籐誼小学校

白雲小学校では、太陽光温水器システムの設置を終え、給水槽と手洗い場の設置が行われた。



届いた貯水槽：白雲小学校

4-4 第Ⅳ四半期 (2010.1-3)

プロジェクトの第Ⅳ四半期は、第 1 回目の研修をフォローし、改善された衛生施設と衛生教育との相乗効果を図るために、個から集団、学校の保健衛生環境へという意識づけをフォローアップ研修とフィールド訪問を通じて図る時期であった。またフィールドのモニタリングで、施設改善の進捗を把握することが期待されていた。

(1) 派遣前準備

2009 年 12 月、第 3 回派遣時に行うべき活動に関係者別、成果別に整理し、第Ⅳ四半期活動計画書と日程案を策定した。今回は福貢県の籐誼小学校の施設改善の進捗と各学校での衛生教育活動をモニタリングした上で、昆明に戻り、研修計画を準備する日程を組んだ。

(2) 研修準備

2009 年の夏から秋にかけて世界中に流行した新型インフルエンザの影響もあり、個人・学校・社会の健康を守るため、手洗いなど個人の衛生行動と生活の中の衛生環境の向上が前にも増して重

³⁸ JICA 第Ⅱ四半期モニタリング会合について（薄田）

要になっていた。2009 年 8 月の研修では、学校の教師を招いて、教師・子供たちの衛生行動の改善と学校の環境衛生の向上を図るために、「保健と衛生」教育に役立つ教材や授業例を参加者で考える体験型の学習を行った。これは学校関係者・教師の指導力の強化の一貫として実施するもので、プロジェクト中で重要な位置を占める。



事前準備作業：雲南支部にて

第 2 回目の研修では、前回の復習に加え、救急処置と薬箱の使い方、バイオガスと環境衛生の講義（雲南エコ・ネットワーク）を追加した。前回研修後に実際の授業で使ったパネルシアターや子供たちが作成しペープサート・ポスターを研修で発表し、互いに学び合う構成で臨んだ。研修目的を明確にすることも研修のポイントであった。プロジェクトで実施する施設の改善と学校の取り組みの意義や教科書『保健と衛生』を補完し、実践力を強化、授業計画と課外授業計画の企画力強化を意識づけることだ。研修の成果は、参加者全員が、自分の「衛生授業スターターキット」を完成させることだ。



事前準備作業：雲南支部にて

事前準備は夏の研修と同じように、ボランティアを研修参加者役とし、リハーサルをやりつつ意見を聞いた。また必要となる衛生教育スターターキットのサンプルとして、ポスターやパネルシアター、ペープサートの下絵サンプルを作成してもらった。さらには、「君に石けんを！」や「小さな衛生指導員」、「経口補水液の作り方」などのものがたりをデモンストレーションしてもらい、研修本番に備えた。ボランティアとして集まったのは、日本語を専攻する中国大学生ら 7 人で、協会の知人や昆明師範大学で日本語を教える協力隊の松野さんらの紹介で集まってもらったもの。中国に留学する日本人の八田さんと松野さんを加えると 9 人が研修ボランティアとして活動に参加した。



研修リハーサル：雲南支部にて

(3) 研修本番

第一日目、第1回目の研修では手洗いやゴミ捨て、身体の清潔などのテーマについて、知識のみならず、行動へとつなげていく体験型の授業として、子供たちによるポスター作成とペープサート、教師用のパネルシアターを取り上げた。またコミュニケーション手段としてイメージの力や言葉の組み合わせをみんなで考えるためのブレインストーミング（建設的な討議）の方法、ロールプレイを復習した。そして誰もがおなじように授業や生活指導で使えるようトレーシングペーパーを使った塗り絵ポスターキット作成プロセスを体験した。また4コマ漫画による展開形式のものがたりづくり、「イメージの花火」によるブレインストーミング、非言語コミュニケーションを復習し、子供たちによる保健衛生活動プログラム導入に必要な手順とスキルを紹介した。



塗り絵形式のポスター：第2回研修

第2日目は、保健と衛生の授業進行のための授業計画書や子供たちによる衛生活動を指導するための指導計画書の作成方法を紹介した。また、第3日目の午後に計画されている各学校によるモデル授業（既に学校で実施したもの、あるいは研修

中に作成するもののどちらでもよい）の発表シナリオ案を作成してもらった。



ペープサート人形の作成：第2回研修

午後からは、斎藤専門家が個人の衛生から集団や学校環境の整備、安全指導という観点から、簡単な救急法や集団感染の対処方法、薬箱の活用と管理の講義を行った。また経口補水液の作り方をパネルシアターや実習を組み入れながら紹介した。



ペープサート人形の作成：第2回研修

第3日目は、100万回の手洗いプロジェクトの目標として個人衛生のみならず、周囲の環境や地域の環境保全という視点を学校全体がもつことをテーマに、施設改善と衛生授業との統合を意図した研修を行った。午前中はプロジェクトで藤誼小学校に入れるバイオガス施設と環境保全という観点から、雲南エコ・ネットワーク代表の陳氏に、バ

イオガス施設に仕組みと利点、プロジェクトとのかかわりについてパワーポイントを使いながら講義してもらった。夏と冬の研修を通じて、パワーポイントを活用したのは、斎藤専門家とこの鎮氏の講義のみだった³⁹。



環境と衛生講義：第2回研修

午後からは、それまでの無作為によって形成されていたグループから離れ、学校ごとのグループが30分の持ち時間で模擬授業とペープサートまたはパネルシアター作品の発表を行った。



グループ発表：第2回研修

この学校ごとの模擬授業と作品発表のために、

³⁹ 研修は、教師が子どもたちに教える（あるいは共に学ぶ）参加型の方法を提示することを考慮し、現場で使えるもの・やり方を重視した。ただし、教師の理解を促進するためのパソコンを使ったパワーポイントなどのツールを限定している訳ではない。

前もって授業計画の提出を求めており、学校グループは研修以外の時間を利用して、準備していたようであった。



模擬授業：第2回研修

それぞれが面識のないグループで研修課題を行った後で、それぞれの学校グループに帰るジグソー形式は、模擬授業と作品発表に学校の誇りをかけたプラスの効果をもたらした。それぞれの学校はエースと思われる教師を模擬授業の先生役を選び、同僚たちが見事なまでに、大きな声で相づちをうち、反応する「生徒」を演じてくれた。どのプレゼンテーションも笑いと拍手で盛り上がった。



グループ発表：第2回研修

第2回研修でサンプルとして作成したペープサート「小さな衛生指導員」と「君にせっけんを」

のデモンストレーションビデオを作成した。また遠福小学校が作成したペープサート「木と鳥の会話」のビデオを作成した。



小さな衛生指導員：ビデオ画面

(4) 研修の評価

第2回研修には、26人の教員が建水県白雲小学校、福貢県籐誼小学校、遠福中心小学校、果科小学校、匹河中心小学校から参加した。参加者のうち、女性は8人で、初回参加者が18人であった。昆明での研修機会はほとんどなく、なるべく多くの参加者を送りたいという学校側の要望とフォローアップ研修という性格上、プロジェクト側は初回研修者を50%までとしていたが、実際は初めての参加者が70%をしめた。

研修評価については第1回研修と同じ、実施方法、内容理解、実践可能性、有益性に対する質問を無記名で行ってもらった。その結果、それぞれ(3.3/4.0、s:0.68)、(3.4/4.0、s:0.51)、(3.4/4.0、s:0.70)、3.2/4.0、s:0.75)のスコアを得た。9割以上の参加者がそれぞれの質問に肯定的な答えであった。評価終了後に修了証を授与した。



集合写真：第2回研修

(5) 福貢県での現地活動モニタリング

第1回研修後の9月、匹河中心小学校でインフルエンザが学校で流行し、新型インフルエンザを疑って大騒ぎになった。統合した分校の生徒の中にインフルエンザ感染者がいて、瞬く間に寄宿舎の子どもたちに広がった。学校側は近く(200メートルぐらい離れたところにある)の衛生院に症状のある子どもたちを毎日送り、日に2回体温を測らせるという事態が起きた。



H1N1 予防通達：匹河中心小学校

すでに新型インフルエンザに関する通達が教育局から来ていたこともあり、匹河中心小学校は学

校内に疾病予防業務チームをつくり、教育局への随時報告と校内対策に追われた。食堂やトイレの清掃の消毒と清掃を徹底し、保護者への通知等も行った。しかし、最終的には、流行したインフルエンザは新型ではなく季節性のインフルエンザという結論になった。この流行で 636 人のうち、約半数がインフルエンザに罹った。



衛生実践のための全校集会：匹河小学校

このことを教訓に、2009 年 10 月、匹河中心小学校は全校生徒 636 人と教師 36 人を講堂に集めて、研修で学んだパネルシアターを上演し、予防の徹底を図った。上演したのは、手洗いの 6 ステップ、『西遊記（手洗いをテーマにした西遊記の一場面を研修で作成したもの）』、『しあわせの家族（手洗いをテーマに研修で作成したオリジナル）』、『村長の訪問（研修後に教師たちが作ったオリジナル）』であった。



衛生実践のための全校集会：匹河小学校

匹河中心小学校は 2009 年 11 月から、各クラスの保健と衛生の時間を使い、2010 年 6 月 1 日の子どもの日に行う衛生をテーマとした発表会を行うことになった。

一方、遠福中心小学校は 2009 年 9 月 15 日、全校生徒を対象に手洗い 6 ステップの方法を教えた。また 10 月 15 日に 5 年生 100 人（2 クラス）を対象に課外授業としてポスターを描いた。



ポスター：遠福小学校

ただ、これらの作品は衛生に関するものに限っておらず、自由に描かせたもの。ペープサートについては、4 年生 150 人を対象に、自然保護の大切さを伝えるために、『木と鳥の会話』というものがたりをつくり、担任がそれぞれのクラスで 1 回演じた。



木と鳥はともだち：遠福中心小学校

木と鳥の話は、小学校の教科書に載っているものだという。ものがたりの内容は次のようなもの。
「木と鳥はずっと仲の良いともだち。鳥は木のためにいつも歌ってあげている。冬になるといつものように鳥が遠いところに旅にでる。ところがある春の日、鳥がもどってくると、木の姿はなく、木株だけが残されていた。木は伐採されて街の工場に運ばれたと鳥が聞いて、木を探しに街へいく。ところが街の工場に木の姿はなく、すでにマッチとなって出荷された後だった。鳥はともだちを探して飛び回り、ある家でマッチを見つける。マッチはすでに擦られ、いままさにランプに火がつけられようとしている。鳥はマッチでともされたランプに歌う」

簾誼小学校では保健と衛生の授業 7・8 時間を使い、5 年生にポスターとペープサートを作成してもらった、とう。5 年生 54 人を 4 つのグループにわけ、グループで何を作るか話し合ってもらいグループごとに、研修で作成したものを見本に作成させた。よくできたのは 2 つのグループだけだった、という。



ペープサート：簾誼小学校

9 月には手洗い方法を指導した。ポスターも描かせたが、全体的にはあまりいいできとはいえず、良いものだけを（見せるために）選んだ。子どもたちは楽しくやっていた、という。



パネルシアター：簾誼小学校

(6) 建水県一白雲小学校のモニタリング

2009 年 9 月 17 日付けで建水県教育局より、新型インフルエンザ予防に関する通達が出された。10 月中旬、建水教育局の流行性疾患対策部と建水県疾病対策センター、鎮衛生院からの代表 3 人が白雲小学校の新型インフルエンザの対策状況を視察するために訪問した。視察団の前で衛生授業をやったところ、非常にほめられた、という。県より先んじて手洗いの 6 ステップなどをやっていた

ことで県の人たちもびっくりした、というのだ。



新型インフルエンザ視察団：白雲小学校

保健と衛生の授業は 3・5 年生を対象に手に細菌がついているペーパーサートと手洗い 6 ステップをそれぞれひとこま実施した。手洗いの 6 ステップなど（下の写真）が学校の掲示版に貼ってあったので、県の人たちは県の指導に先駆けて実践していることに感心したのだ。ただ、その時には手洗い場はまだ完成していなかった。



掲示版に貼られた研修教材：白雲小学校

(7) 施設改善

プラスチック製バイオガスタンクの製造元である昆明広標科学技術会社の車が昆明を出発し、怒江の簾誼小学校に着いたのは、モニタリング訪問中の 2009 年 1 月 12 日のことだった。簾誼小学校

の教師、福貢教育局インフラ担当が見守る中、バイオガス槽 2 基設置のため作業が始まった。設置地点には学校給食のための白菜が植えられていたが、急遽、白菜を収穫し、掘るべき場所の測量を行った。設置場所にやや石が多く、業者に雇われた人たちは業者側が提示している額に難色をしめしていたが、やがて話がまとまり、穴堀が始まった。



野菜を引き抜く：簾誼小学校

6 立方のプラスチックタンクを 2 個運ぶのだから大型のトラックで来るに違いないと思っていたが、やってきたのは、乗用車よりも大きめのバンだった。プラスチックタンクは組み立て式なので中型の乗用車に入ってしまうほど実際は軽く小さい。



プラスチック製の槽：簾誼小学校

昆明広標科学技術会社は、これまで雲南省で 100 万個のバイオガスを設置した実績がある。中国の新農村計画で、農村のバイオガスが進められており、その後押しもあって急成長した。中国で唯一プラスチック製のバイオガスタンクを製造販売し、特許を持っている。

バイオガスタンク設置のための穴を掘り始めてまもなく、思わぬ誤算があることが分かった。設置場所の地下に大きな岩があり、手彫りでは不可能となった。削岩機を手配し、必要な穴を掘るまでに想定外の労働者と費用がかかってしまい、シャワー棟の工事にも影響を与えることとなった。工期が予定より大幅に伸びたものの、予定どおりバイオガスタンクが設置され、ガス漏れがなく、安全にガスが産出されるまで調整が図られた。



砕かれた石の残骸：簾誼小学校

2010 年 1 月、建水の白雲小学校では、施設改善の仕上げ段階にあった。旧給水槽の上に 5 トンの給水槽を設置し、まわりに 13 個の蛇口を取り付けた。付属する手洗い場にタイルを貼ると完成する。すでにむらの共同トイレの掃除のための給水や手洗い、寄宿する子どもたちの洗面に使われているため、タイル貼りは子どもたちが春節の休暇で帰る 1 月下旬に行った。

白雲小学校はプロジェクトの対象となっている学校で、唯一むらと学校が同じ共同トイレを利用している学校である。この共同トイレ周辺にも学校の敷地内にもスペースがないため、学校の塀の上から歩道橋を渡し 2 階建てのトイレに改築する計画であった。この改築資金は草の根と中国側が資金を出し合い、建設する予定であったが、実現性に関する確証とむら・教育局の資金提供が困難なため、プロジェクトでは建設を行わないことになった。



手洗い場から水を運ぶ：白雲小学校

しかし、学校内に 5 トンの給水槽を設置したことで、学校の子どもたちが行うトイレ清掃のための水が確保でき、トイレの清潔度をある程度保つことができるようになった。



トイレ掃除：白雲小学校

校内の敷地は狭く、シャワー室は新寄宿舍の隙間を利用し建てられた。施設内に2つの蛇口を取り付け、子ども4人が一度にシャワーを浴びることができる。



シャワー室外観：白雲小学校

太陽温水器システムの貯水用に新寄宿舍の屋上に5トン、2トン、0.5トンのタンクと太陽光パネルが設置された。2トン槽はお湯専用のタンクだ。1日陽があたると子どもたち30人がシャワーを浴びることができる。太陽光温水器のお湯は、給食のための炊事室にも送られている。もともと断水の問題があったため、5トンの給水槽の設置は炊事場の水供給の問題も解決した。



設置された太陽光パネル：白雲小学校

太陽光温水器は、パイプの取り替など3年間のメンテナンスサービスがついている。新寄宿舍の屋上は鍵がかかり、子どもたちは入ることができないようになっている。



次項以降に、学校での石けん調達の奮闘を描いた「君に石けんを！」のあらすじとシナリオの一部を載せた。第2回教師研修で紹介したもの。

君に石けんを！

用肥皂洗手



石けんを使った手洗い指導を継続するために教師たちが集まった。教育局や保護者に石けんの調達をお願いすること。「手洗いポスター授業」—『君に石けんを！』について5年生のクラスが取り組むことに。

①教師が学校で手洗いの指導を進めたものの、子供たちから「教師、わかるけど、学校に石けんがないよー」の声が…。



Cさんは家に帰り、授業で描いた手洗い活動のポスターを家族にみせた。

母親：「ほう、そんなことやっているのかい」

Cさん：「誰もが石けん持ち寄って必要な人と分かち合うから、『君に石けんを！』なんだって」

母親：「これ、もっておいで」と石けんをCさんに渡した。



Dくんは、父と2人暮らし。父親にポスターをみせた。

父親：「『君に石鹸を』？」

Dくん：「絵の女の子が、生きていたころのボクのお姉さんのようだと、教師がいった」

父親：「余計なことをいいやがる。これを半分もっていきな」と石けんをDくんに渡した。



シナリオ

『君に石けんを！』のシナリオから・・・

<校長室で>	先生A：「校長先生、さっき、クラスの子供たちに、石鹸がないっていわれたんですよ。なんとか教育局の人や県の疾病対策センターの人に、子供たちの石鹸を都合してくれないか、掛け合ってもらえませんか？これだけ、誰もが新型コロナウイルス対策が重要だとわかっているんでしょ？」 校長：「わかっている。でもほかのことで優先させなきゃいけないこともあって、難しんだ。でも、子供たちが一生懸命やっている姿を教育局や県疾病対策センターが知ったら、きっとなんとかしてくれるに違いない」 先生B：「校長先生、この際、保護者にも石鹸の現物提供をお願いしたらどうでしょう？」	困り顔で 困り顔で・・・>最初は裏の困り顔をみせ、セリフ後半でスマイル顔にする。
---------------------	---	--



5. 活動のフィールド



研修テーマポスター「君に石けんを！」

プロジェクト活動には東京の都心から中国雲南省怒江の辺境地域まで、様々な個人・団体が異なる時間と空間の中で、それぞれ関わる。いつもと同じ場所でやりなれた日常業務を行うとは違い、プロジェクト活動は新しい局面に常に対応することを迫られる。しかもプロジェクトによってもたらされた成果を享受し、継続するのは対象とする中国の人々だ。国境を越えた社会開発プロジェクト⁴⁰の難しさがここにある。

これまではプロジェクト活動を時間軸に沿って

記述したが、ここではプロジェクトに関与した関係者の置かれている状況に沿った動き、さらには個々が抱える関心や課題を中心に記述する。

5-1 日本・雲南聯誼協会東京本部

協会のプロジェクトチームが、与えられた費用・資源⁴¹の範囲内で時間どおりに PDM に記載された内容で目的を達成する責務を追う。プロジェクトでもたらされる成果が相手側のコンテクス

⁴⁰ 経済開発は経済価値—お金に換算できるのに対し、社会開発は能力や健康など多面的。

⁴¹ 活動を可能にするお金、材料、人、情報のすべて。コネやネットワーク（社会関係資本）も資源とみることができる。

ト⁴²の中で意味を持ち、根付くよう関係者との協力関係を築くことが求められる。

一方、プロジェクトチームのメンバーは協会の日常業務とプロジェクト活動の両方に従事することになり、内部での明確な業務の振り分けとスケジュール管理が必要となる。



教材準備：東京事務所にて

協会本部はオーバーワークを抱えながらも外部専門家やボランティアの投入によって活動の一部を振り分け、プロジェクト管理のための専門家の公募と確保に関する手続きや研修ボランティア確保、プロジェクト経費の管理、JICA 本部との調整業務を行った。またプロジェクト活動を記録し、協会の会報や外部への広報を行った。

協会が発行する会報やブログ以外の活動として、これまで、プロジェクト勉強会、外務省主催 NGO 研究会「水に関わる援助のあり方」への参加、JICA の水と衛生セミナー参加、サニマップ⁴³への団体登録を行った。また JICA 中国事務所が発行する中国 NGO ジャパンデスクニューズレター（6-9 月期）の草の根技術協力事業の動向に、100 万回の手洗いプロジェクトの活動を紹介した（中

国・雲南少数民族地域での学校を中心とした健康・衛生環境改善プロジェクト～100 万の手洗いプロジェクト～の現場より）。

5-2 日本・雲南聯誼協会雲南支部

雲南支部は現地の日本側窓口として、協会のすべての業務を担っている。プロジェクトも同様に日本からの派遣期間以外はプロジェクト側の調整窓口としての重要な役割を担っている。

これまでプロジェクトチームは派遣前に四半期ごとに活動計画書を準備し、成果ごと、関係者ごとに準備・調整すべき内容を箇条書きにすることによって雲南支部と情報を共有してきた。これに沿って管理に関わる文書の翻訳やモニタリング随行・通訳、僑務弁公室との連絡調整を行ってもらった。

また雲南支部は教師研修では次のような役割を担った。

- (1) 研修参加者に必要な配布品（ノート、P ペーパー、筆、絵の具、画用紙など）の調達と配布
- (2) 研修参加者の管理と研修会場設定
- (3) ボランティアへの確保と管理
- (4) フィールド訪問のためのアポイント、宿泊・車両手配
- (5) 通訳と翻訳
- (6) 2 回の研修の日程の調整と確認

施設関連の調整では以下のような活動に寄与した。

- (1) 施設関連に関する調整と書類のとりつけ
- (2) モニタリング日程の調整とモニタリング訪問（11 月に福貢県）
- (3) 雲南エコ・ネットワークとの調整

⁴² 法・制度、文化・慣習などの人的な環境

⁴³ WHO, UNICEF ほか、世界の団体が参加する衛生とトイレに関する情報共有サイト

<http://www.sanimap.net/xoops2/modules/gnavi/>

2009 年度活動報告書

モニタリングやフィールド訪問では次のような活動を支えた。

- (1) ベースライン調査票の回収と入力
- (2) モニタリング訪問時の通訳・翻訳、随行
- (3) 日程の調整



雲南支部からの眺め：運案支部

5-3 雲南省僑務弁公室

雲南省僑務弁公室は協会雲南支部から歩いて10分ぐらいのところにある。第1回目の研修は僑務弁公室が研修内容を観察できるよう僑務弁公室が保有するホテル会議室を利用した。



研修会場準備：僑務弁公室ホテル

僑務弁公室はプロジェクトに関して雲南支部と

協力しながら、必要な調整や地方への指示を行った。ただし、フィールドでの活動は統一戦線部と各学校に委ねられていた。実際の役割は次のとおり。

- (1) 県教育局・統一戦線部への連絡と調整
- (2) 研修参加者への招待状・研修修了書授与
- (3) 研修での挨拶
- (4) プロジェクト活動進捗の共有
- (5) 手洗いの継続のための石けん調達支援⁴⁴

雲南省は経済的にもASEANとの関係が強まり、僑務弁公室の仕事の優先順位が変化しているように思える。行政執行機関として強力な権力が持ち、プロジェクトに対して強力的であるものの、学校保健の施策や現場での技術的な関心を必ずしも持っている訳ではない。

5-4 建水県教育局

建水は教育県として知られ、中国三大孔子廟の一つがこの建水旧市街にある。建水県教育局は、新市街の新しい庁舎の一角にある。



孔子廟への門：建水

⁴⁴太陽光との会合で、系列のホテルに使わなくなった固形石鹸を集めてもらうよう依頼したものの、その後のフォローがされていない。

2009 年 6 月、JICA 視察団と共に建水の新開発地区にある建水県教育局の教育局副局長ほか、建設と財務担当を訪ね、プロジェクトへの協力を仰いだ。また同年 8 月、白雨小学校モニタリング時に、施設改善と衛生教育実践の現況確認し、白雲小学校の施設改善と教師の研修参加について、協力をと支援を再度依頼した。



建水県教育局訪問：建水にて

特にプロジェクトが実施する研修には、白雲小学校だけでなく、盆科鎮中心小学校や建水県教育局から可能な限り、誰かを参加させるよう依頼していた。しかし、最終的には教育局と盆科鎮中心小学校は、研修に参加者を派遣することではなく、建水教育局のプロジェクトに関する関与はミニマムに留まった。

5-5 白雲小学校

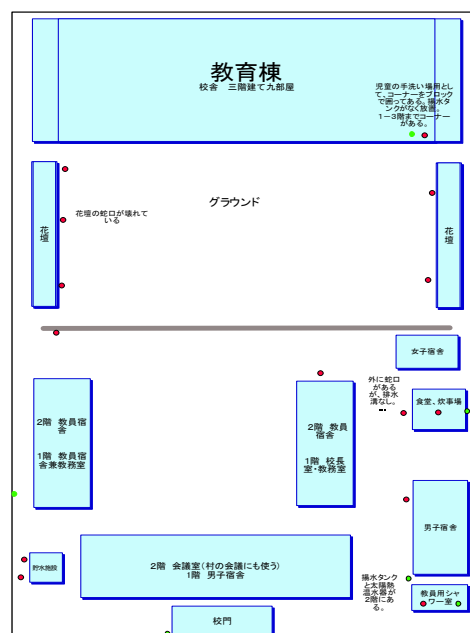
白雲小学校は、建水から車で 1 時間ほど、北東に行った盆科鎮白雲村にある。生徒数は 361 人で 1 年生から 5 年生までがここで学ぶ。6 年生はになると中心学校に行く。小学校はもともと寺院であった敷地に建てられたため、隣家と隣接し、敷地に余裕がない。通常、学校は専用の共同トイレを敷地内にもつが、白雲小学校は敷地外の共同ト

イレを白雲むらの人々と共有する。この共同トイレを毎日清掃するのは白雲小学校の子供たちである。村人は使うのみで、掃除には全く関与していない。



校舎屋上から見た教員棟：白雲小学校

もとも衛生に関する村人の関心は低く、建水教育局の支援がほとんどない中、プロジェクト活動の継続を牽引したのは白雲小学校校長だ。これまでも共同トイレの部分的改善ほか(2007 年)、壊れた蛇口の交換 (2007 年 12 月調査期間中)、3 階建て寄宿舎の新築 (2009 年 12 月) と独自に学校施設の充実に取り組んできた。



校内マップ 2008：白雲小学校

建水県の場合、小学校校長は個別に教育局と3年契約を結び任命される。校長以外の教師は、移動があるのに対して校長は、同じ学校に留まることもプロジェクト成果の継続という視点からは好都合といえる。

5-6 福貢県統一戦線工作部

怒江州福貢県を中心は福貢である。昆明から福貢までは夜行バスで15-16時間かかる。冬と夏では怒江の様子がまったく異なる。冬の怒江の翡翠色の水に一瞬心奪われるが、支流との合流点はどこもゴミでいっぱい。夏の雨期は水量が多く名前が示すとおり怒り狂ったような黄土色の濁流が谷底をえぐる。捨てられたゴミはすっかり流されるようだ。



福貢市街：福貢県

建水県では、統一戦線部工作部（統一戦線部）が関与することはなかったが、福貢県はミャンマーと国境を接していることもあり、訪問時には常に統一戦線部を介して現地入りする。福貢県統一戦線部によると、戦線部の役割は共産党の方針を人民に浸透させるために、組織内外を超えて目標を達成するよう協力体制を構築すること、という。

福貢県の統一戦線部は部長ほか、5・7人が所属

しており、縦割り行政を超えて活動する。

モニタリング訪問の際にはすべての行動に統一戦線部が同行する。統一戦線部は教育局とともに簾誼小学校の施設整備の施工管理をおこなった。

5-7 福貢県教育局

2009年8月、福貢県教育局の建設担当を訪ね、プロジェクトの内容と支援協力体制を確認した。このとき、統一戦線部と教育局の両者から、プロジェクトの施設改善について、一部変更する必要があるとの申し出があった。



教育局：福貢

教育局によると、プロジェクトの対象としていた果科小学校の貯水槽設置が地元の組織「扶貧班」によってすでに建設されたこと、遠隔地にある分校を完全小学校に統合していく「集中弁学」の政府方針があり、果科小学校も5年以内に廃校となるため、完全小学校である簾誼小学校の太陽光温水器とシャワー室建設に、果科小学校のプロジェクト負担分を集中させる必要がある、というものだった。一方、簾誼小学校は福貢県架科底郷にある完全小学校2校のひとつとして、周辺地域の分校の生徒を受け入れなくてはならず、衛生施設の充実が求められていた。

教育局のインフラ担当を通じて、衛生教育に関する教育局の方針や取り組みについて間接情報を得ているが、その他の部署との意見交換は実現していない。

5-8 藤誼小学校

藤誼小学校は福貢から車で 30 分ほど怒江を下った川沿いにある。福貢県架科底郷に 2 つある完全小学校のひとつである。学校周辺には 20 軒ほどの民家が点在する中で、子どもたちの出身の村々のほとんどは山岳部に点在する。



教育棟から怒江を見る：藤誼小学校

藤誼小学校の全生徒数は 348 人で、そのうち寄宿生徒は 320 人（92%）と、ほとんどが寄宿舎で暮らす。敷地は非常に狭く、校舎・寄宿舎とも不足している。2013 年までに、郷内の 23 校の学校をすべて廃校にし、完全小学校に統合する。最終的には、藤誼小学校の生徒数は 600-700 人まで増加すると、いう。

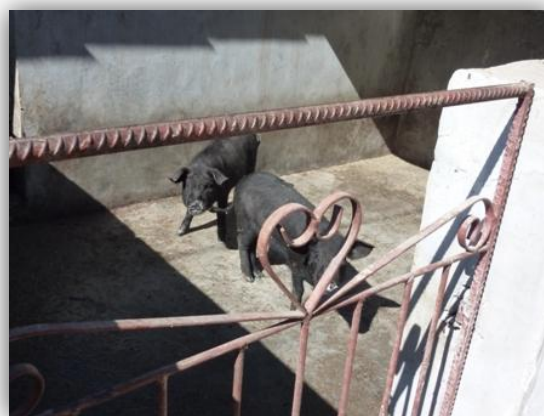
2009 年 8 月、基礎調査時の計画の一部を修正し、最終的な施設改善の対象を統一戦線部、教育局とともに藤誼小学校を訪問し、確定した。2008 年 1 月の基礎調査では、亀裂のある貯水槽に代わる新しいタンクの設置が喫緊の課題だった。これ

を受けて、貯水槽の設置をプロジェクトの中でもっとも優先順位の高い施設改善対象として入れていたが、その後、教育局はローンにより新寄宿舎の建設時に、校庭のコンクリート化と手洗い場つき貯水槽の設置、校内のゴミ箱の設置を行った。また学校の食用として豚を飼育するための豚舎を建設した。



新寄宿舎と給水槽：藤誼小学校

これを受けて JICA 草の根技術協力による藤誼小学校の施設改善に関する分担を、トイレのバイオガス化と太陽熱温水器とシャワー棟の設置、手洗い場の追加を対象とすることに決定した。豚小屋の糞尿を使えることもバイオガス施設設置にとって好材料だった。バイオガス産出には家畜の糞が必要だからである。



飼育されている豚：藤誼小学校

2009 年 11 月、雲南支部/雲南エコ・ネットワーク代表が籐誼小学校を訪問し、施設建設と衛生教育実践活動の現況確認を実施した。



雲南エコ・ネットワークの技術支援：簾誼小学校

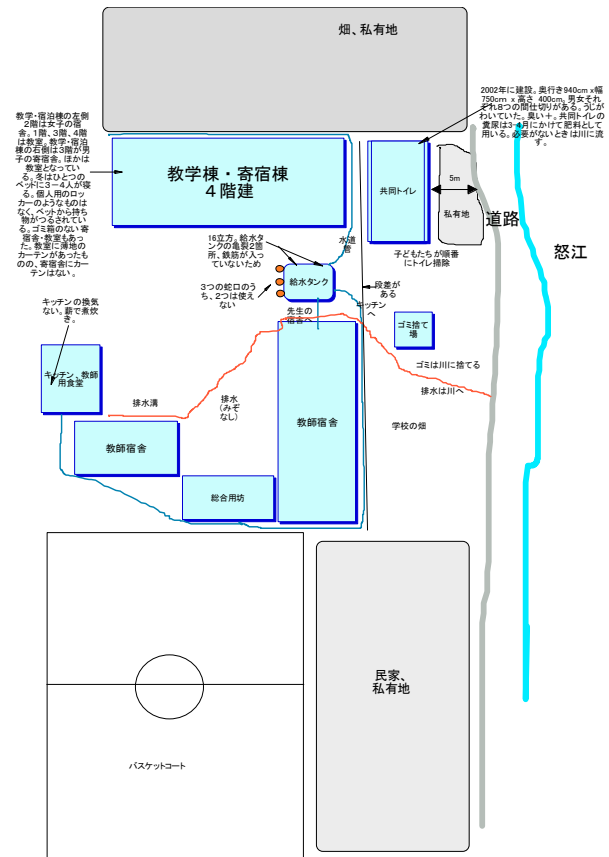
地元の請負業者はコンクリート製のバイオガス施設の建設計画を立てていたが、ガス漏れの危険や維持管理のしやすさから当初の仕様どおりプラスチック製のタンクを設置することにした。雲南エコ・ネットワークがこれに伴う必要な情報を地元を提供した。また豚小屋に親6頭、子4頭の豚が飼育されていることを確認した。



野外で卓球：籐誼小学校

これまで籐誼小学校には複数の手洗い場もシャワー室もなく、バイオガス施設の設置目的は太陽光温水器システムによる温水シャワーを補うためであった。しかし、同時に環境と衛生に関する看

板施設として校内のみならず、近隣への宣伝効果も期待している。



校内マップ 2008： 籐誼小学校

教師研修後、籐誼小学校ではパネルシアターや
ペープサートを使った衛生教育が実践された。手
洗いも指導しているが、石けんを補充する費用を
確保できず、子どもたちは水のみで洗っている、
という。

5-9 遠福小学校(藤誼小学校が属する架科底郷の中心小学校)

遠福中心小学校は架科底郷の中心小学校で、協会が支援した籐誼小学校を管轄する。福貢から車で 40 分ぐらいの怒江を下った川沿いにある。遠福中心小学校の場合、中学校が隣接し、それぞれの校長のほかに小中学校を統括する校長がいる。

2009 年度活動報告書

中心学校は管轄下の学校の予算や人事、カリキュラムに対する決定権を持つ。



架科底付近 2 月：遠福小学校

2009 年 9 月の情報によると遠福中心小学校の全校生徒数は 498 人で（2008 年は 423 人）、そのうち寄宿生徒数は 460 人(92%)である。校長の話によると、管轄下にある分校に来る児童は 2 年生までで、3 年生以上は 6 年制の完全小学校に行くことになる。分校の統廃合の方針もあり、教室と宿舎が不足している、という。



中庭を校舎が囲む：遠福小学校

校舎・寄宿舎はバスケットコート（コンクリートの中庭）を囲むように谷底に建ち、怒江がすぐ脇を流れている。トイレは標準的な間仕切りのみで 1 槽式トイレで怒江に面しており、糞尿はそのままあふれて怒江に流れる形式になっている。シ

ャワー設備はなく、子どもたちはシャワーを浴びない。教師は隣の中学校でシャワーを浴びる、という。手洗い場は寄宿舎の横に 1 ヶ所（蛇口 7 個程度）と校内トイレに 1 か所、事務棟の裏に 1 ヶ所のみ。そのほか、食堂に手洗い場がある。



寄宿舎横の手洗い場：遠福小学校

分校の統廃合に伴う教室や寄宿舎の増強のため、職員室ほかの設備増設工事が計画されている。将来構想として、中学校が福貢に統合され、中心小学校が両施設を占有する予定という。



小学校長：遠福小学校

5-10 匹河小学校(果科小学校が属する匹河郷の中心小学校)

匹河中心小学校は福貢県匹河郷の中心小学校で、

2009 年度活動報告書

協会が支援する果科小学校は匹河中心小学校が管轄する分校のひとつである。怒江沿いにあり、福貢から六庫へ一時間ほど戻った匹河の街中にある。匹河中心小学校は2009年5月怒江州教育局より、州内の数学校しかない「文明学校」として認定されている。



教育棟と中庭：匹河小学校

2009年9月の情報によると全校生徒数は650人（2008年は585人）で、そのうち寄宿生徒数は531人(82%)である。教職員数は45人で、そのうちの正式教師数は38人。



洗濯する寄宿生：匹河小学校

敷地内には花壇や木が植えられ、大手たばこ会社の紅塔が援助した立派な教育棟がある。各階に手洗い場(蛇口1つ)とゴミ箱が設けられている。

また2階建ての間歇式水洗トイレ⁴⁵とシャワー施設が2009年に建設された。



シャワー室：匹河小学校

宿舎には1ベッドに1つの箱があり、生徒はそれに衣服や靴等を入れているという。歯ブラシや石けんは原則学生各自が準備するが、歯ブラシ等の生活用品を学外の篤志から寄付してもらうこともある。



校庭におかれたゴミ箱：匹河小学校

匹河中心学校がある匹河郷は、2000年より6年義務教育、2008年より9年義務教育が始まった。それまで32あった分校は「集中办学」の方針に

⁴⁵ 一定時間ためた水を複数のトイレを貫く溝に流し方式でもっともモダンな方式として、福貢市内においくつものレストランなどでも設置されている。しかし、糞便の無害化や浄化が行われている訳ではない。

従って徐々にこの中心小学校に集約されていくという。

5-11 果科小学校

果科小学校は匹河郷の人民政府から 30 分下った怒江沿いの道から、左へ分離した険しい山道を登り切った山頂近くにある。その道は近年造られたもので、狭く急峻、かなりの凸凹があり、4 輪駆動車がやっと通れる道幅しかない。



周辺風景：果科小学校

果科小学校は協会の支援で 2 階建ての校舎が建築され、2005 年 8 月に開校した。2008 年 1 月の調査では生徒数は 2・4 年生の 29 人で、寄宿生はいない。教師は 2 人のみである。



教室：果科小学校

むらには、洪水で破壊された貯水槽と今にも壊れそうな共同トイレがあり、プロジェクトの改善対象となっていた。記述したとおり、むらの自治支援組織によって給水槽が建設されたこと、分校の統廃合が決定されたことにより、施設改善は行わず、研修のみを対象とすることにした。



共同トイレ：果科小学校

2009 年 8 月、果科小学校へのアクセスの悪さに加え、廃校となる分校への当局の関心が薄れたこともあって、訪問ができなかった。果科小学校へは通常の 4 輪駆動ではいけず、統一戦線部の許可も下りなかった。

果科小学校の教師 2 人がプロジェクトの衛生教育研修を受けた。

5-12 雲南エコ・ネットワーク(雲南生態網)

昆明市郊外にある雲南エコ・ネットワークとは基礎調査時から協力関係にあった。雲南エコ・ネットワークはバイオガス施設の普及推進のために、民間組織や海外 NGO の受け皿として、また、都市市民、農民への啓発活動を行ってきた。バイオガストイレを設置した農民へのアフターケア（維持管理方法の教育）のほか、森林伐採や環境保護に関心ある学生や市民への普及啓発おこなってい

る。

農村部の子どもたちへの教育、環境教育について都市の子どもたちとの交流、農村調査などを行っている。



雲南エコ・ネットワーク訪問：昆明にて

プロジェクトのデザイン時にはバイオガス施設の視察同行やバイオガス設置に関する技術的なアドバイスをもらっていた。プロジェクトが実施に移った段階からは教師研修へのスタッフ派遣（ボランティアとして）やボランティア学生の斡旋、福貢県籐誼小学校のバイオガス施設に関する技術的なアドバイス、教師へのバイオガス施設維持管理研修への協力をしてもらうことになっている。



雲南エコ・ネットワーク訪問：昆明にて

これまで、第1回の教師研修へのボランティア派遣、第2回研修への講師派遣、11月の籐誼小学

校への施設改善モニタリングに協力してもらった。

雲南エコ・ネットワークは現在、麗江郊外にある環境教育センターを拠点に雲南省の自治体や海外の大学との協力によって、様々な環境保護プログラムを運営している。

5-13 Web 制作会社

100万回の手洗いプロジェクトの内容とその活動過程で作成されたパネルシアターやペープサート、ものがたりを広く公開することによって、衛生教育への取り組みを養護・強化することを狙っている。

ウェブ制作会社と契約し、内容を公開していく予定。



6. プロジェクトの実績と成果（2009 年度）



トイレ掃除用の水をくむ：白雲小学校にて

6-1 教師の実践力強化

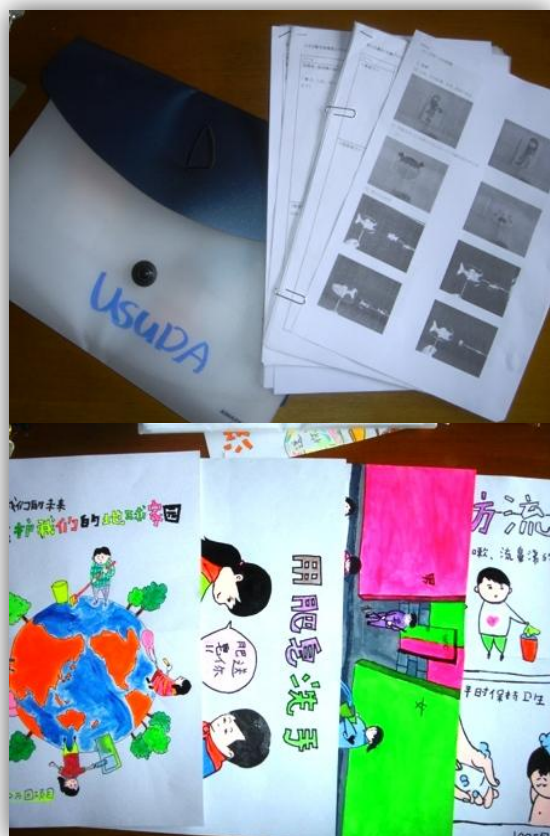
プロジェクトのデザインでは、彼らが働く現場で、「教師・学校関係者の健康と衛生に関する指導能力が高まる」こと、つまり教師の実践力強化を「成果」として求めている。対象小学校の教師を対象に、手洗いを中心とした 2 回の健康衛生に関する実践的な教育・指導研修で、56 人が出席し、延べ 180 人日⁴⁶の出席があった。この研修に対する参加者の 9 割以上の教師は、研修方法、内

容、実践性は満足のいくもので、学校で応用可能だとしている。ただ、教師の実践力強化は研修評価に加えて、研修で学んだことを活用してオリジナルの授業・課外活動を自主的に計画したかどうか、また実際に何人の子供たちが授業を受けたかどうかを検証する。現場での実践が本当に求められていることだからである。

実践力を高めるために、第 2 回研修では教師自らが自分用の教材や授業計画をつくる「衛生授業スターターキット」作成プロセスを研修の軸に据

⁴⁶ 第 1 回：26 人 x 4 日（昆明）+ 8 人 x 2 日（白雲）+ 第 2 回目：26 人 x 3 日（昆明）

えた。スターターキットとは、教師が衛生教育授業を行う際に必要な参考サンプルや資料をまとめた道具箱である。キットには研修で作成したサンプルほか、以下のようなツールが入っている。



衛生授業スターターキット

(1) ペープサート課外授業キット

- ・ ペープサートの技法
- ・ 『小さな保健衛生指導員』の中文シナリオ
- ・ トレーシングペーパーによる『小さな保健衛生指導員』
- ・ 『君に石鹸を』石鹸プロモーションシナリオ
- ・ トレーシングペーパーによる『君に石鹸を』
- ・ 『元気村とインフルエンザ村』シナリオ
- ・ トレーシングペーパーによる『元気村とインフルエンザ村』

(2) ポスター授業キットの内容

- ・ トレーシングペーパーの使い方図（中文）
- ・ トレーシングペーパーに写した手洗いと石鹸プロモーション用のポスター1種
- ・ トレーシングペーパーに写したゴミは捨てるポスター1種
- ・ トレーシングペーパーに写した新型インフルエンザ予防に関するポスター1種
- ・ トレーシングペーパーに写したトイレはキレイにキャンペーン用ポスター1種
- ・ トレーシングペーパーに移した手洗い6ステップ

(3) パネルシアター授業キット

- ・ パネルシアターの技法
- ・ 経口補水液の作り方シナリオ
- ・ トレーシングペーパーによる『経口補水液の作り方』
- ・ 『西遊記』セリフ（中文）
- ・ トレーシングペーパーに写した『西遊記』

(4) 授業計画・課外授業計画書見本、

- ・ ロールプレイのしかた
- ・ ポスター授業計画シート見本
- ・ パネルシアターによる保健と衛生授業計画見本
- ・ ペープサートによる小さな保健普及指導員プログラム（課外授業計画見本）
- ・ ペープサート活動日誌（子どもたちグループ用）
- ・ 授業指導計画書式
- ・ ものがたりのためのシナリオ書式

第1回の研修終了後より、それぞれの学校で実践した活動内容を記録するよう依頼していた。2009年9月-12月間で、ポスター(Paと略)、パネルシアター(Peと略)、ペープサート(Poと略)を使

った授業が 5-11 時間程度実施され、延べ 2200 人程度の児童がそれらの授業に出席した。9 月-12 月間でそれぞれの学校で実践された内容は以下のとおり。

- (1) 匹河中心小学校では、2009 年 10 月、(Pa)を使った衛生教育のための約 2 時間の全校集会(636 人)を実施。また 2009 年 11 月から保健と衛生の時間の中で、衛生をテーマとした (Pa)/(Pe)の発表会を行う参加型の授業を継続的に実施(636 人)した。



全校集会：匹河中心小学校

- (2) 遠福中心小学校では 2009 年 9 月、(Pa)を使った約 2 時間程度の手洗い 6 ステップを実施(498 人)。また 5 年生 100 人を対象に(Po)授業を実施しつあ。
- (3) 籐誼小学校では、2009 年 9 月、5 年生を対象に(Po)と(Pe)を 7-8 回実施(54 人)した。

- (4) 白雲小学校では、2009 年 8 月、5 年生 70 人を対象に(Pe)の授業を実施。また 2009 年 9 月に、3-5 年生を対象に(Pe)/(Pa)を 1 コマずつ実施した (210 人)。

研修で作成したサンプルを基に各学校独自に (Pa),(Pe),(Po)の授業計画を作成できるようになったが、自主的な取り組みは匹河中心小学校と遠福中心小学校に留まっている。内容は以下のとおり。

- (1) 匹河中心小学校では第 1 回研修で作成した (Pa)『手洗い 6 ステップ』、『西遊記』、『しあわせの家族』に加え、オリジナル『村長の訪問』を作成し、全校集会で発表した。
- (2) 匹河中心小学校は、2010 年 6 月 1 日の子供の日に合わせて、保健と衛生をテーマとした (Pa)(Pe)の発表会を企画した。
- (3) 遠福中心小学校では 4 年生を対象に自然の大切さを伝えるために (Pe)で『木と鳥に会話』を作成し、授業に用いた。



鳥と木の会話：遠福中心小学校

- (4) 研修の中でそれぞれの学校がオリジナルの (Pa)または(Pe)のシナリオと授業計画を完成させた。

6-2 子供たちが身につけたもの

プロジェクトのデザインでは、教師の子供たちへの指導の後に、子供たちが何を身につけたのか—「小学校 5・6 年生の健康・環境衛生に関する対処能力が高まる」を客観的に調べる 2 つの性質の異なる指標を用意している。

ひとつは子供たち自身の変化を質問票によって図る方法である。これは、介入前に実施したベースライン調査と 2010 年に実施する介入後のエンドライン調査で比較する。ベースライン調査については、「10. 添付：ベースライン調査データ」に、学校ごとの分析結果の概略を載せた。

もうひとつの方法は教師たちによって持ち込まれた授業や課外指導の結果として、自分たちが他の低学年の子供たちに学んだことを伝える活動を実施したかどうかを見る。プロジェクトでは当初の材料を提供するものの、すべての活動は学校の自主活動に委ねられる。ただ、子供たちから子供たちへの関与に関するアプローチは十分に教師研修で意識づけられていなかったため、第 1 回研修後の 2009 年 9-12 月では、まだ十分に実施されなかった。



手洗い実習：白雲小学校

2010 年 1 月末までに、児童から児童への (Pa)/(Pe) 授業または課外活動が実施されたのは、白雲小学校のみであった。2009 年 8 月、5 年生 70 人が 4 年生に作品を披露したことが把握されている。ただ、こうした上級生から下級生へのアプローチは本来、課外授業や日常生活中で実践されることを期待している。



上級生による下級生へのアプローチ：白雲小学校

6-3 施設・環境の改善

プロジェクトのデザインでは「小学校の衛生環境向上のための施設が改善される」ことを成果のひとつとして掲げている。基礎調査時の 9 つの施設改善対象が 70% 以上改善されることを指標のひとつとしている。

2010 年 3 月時点で基本的改善に関する 9 つの要求項目のうち、6 項目が改善された。具体的な内容は以下のとおり。

【白雲小学校の施設改善に関する要求項目】

(1) 貯水槽と手洗い場（改善・新規設置）

旧貯水槽の上に 5 トンの給水槽を設置し、まわりに 13 個の蛇口を取り付けた。洗い場は白タイル張り。旧槽は低い場所にあり、渴

水時にはよく断水したが、十分な水量を確保したことで断水がなくなった。



完成した貯水槽と手洗い場：白雲小学校

以前(写真上:2007 年 12 月/写真下 2010 年 2 月)はトイレ掃除のための水が不十分で長蛇の列が出来た。また蛇口の数少なく、手洗い場がなかったがタイル張りの手洗い場が設置された。



手洗い場：白雲小学校

(2) 共同トイレ（現状維持）

小学校のむらの共同トイレは、むらによって 2007 年に新しく建設されたものの排水や糞便槽の容量の限界、トイレに隣接する手洗い設備がないなど、改善が必要であった。しかしながら、むらに帰属する共同トイレの土地スペースにまったく余裕がなく、小学校の校庭内にも代替スペースがなかった。同じ土地に 2 階建てのトイレを建設し、学校から歩道橋を渡す案についてプロジェクトでその建設の一部を負担する計画であった。しかしながら、2 階建てトイレの技術的な実現性に確信が得られなかったこと、さらには現地側の自己負担額の目処が立たないことから、プロジェクトの方でもトイレ改善を断念した。



トイレ掃除：白雲小学校

プロジェクトで設置した新しい貯水槽の水で断水することがなくなったため、生徒が毎日トイレ掃除を行うことで、比較的トイレが清潔に保たれている。

(3) 太陽熱温水器・シャワー室（新規設置）

太陽光温水器に水を供給するための 1.5 トンの貯水槽と 200 本の集熱パイプ、0.5 トンの

温水槽を備えた太陽光温水器を新宿舍の屋上に設置した。また2機のシャワーを備えたシャワー室が宿舍1階脇に建設された。



太陽温水器システム：白雲小学校

給湯はシャワー室のみならず、給食のための炊事室へも配管された。これにより炊事室の断水と冬場の給湯が可能となった。



シャワー室：白雲小学校

【果科小学校の施設改善に関する要求項目】

(4) 貯水槽と手洗い場（改善・設置）

現地側によって新規に貯水槽が建設された。
手洗い場が設置されたかどうかは不明。

(5) 共同トイレ（現状維持）

分校廃止のため、現状のまま。

(6) 太陽熱温水器（なし）

分校廃止のため、現状のまま（なし）。

【籐誼小学校の施設改善に関する要求項目】

(7) 貯水槽と手洗い場（改善・設置）

2008年11月にコンクリート製の貯水槽と9つの蛇口を持つ手洗い場が教育局の支援で設置された。また校庭内敷地がコンクリート化やゴミ箱など衛生環境の改善が図られた。新たな貯水槽の設置費用は1万元とのことである。



貯水槽と手洗い場：籐誼小学校

(8) 共同トイレのバイオガス化（新規設置）

近隣で畑を耕す農家は非常に少なく、また共同トイレの糞尿は農業に利用されることもないまま、怒江に直接ながされていた。プロジェクトはトイレのバイオガス化によって糞尿を無害化し、さらには熱源を利用してシャワーなどに温水を供給する目的で6立方のプラスチック製バイオガス施設2基を設置した。

怒江周辺ではレストランなどに水洗トイレが設置されているものの、処理されずに怒江への糞尿を垂れ流しにしている。こういった状況の中、環境に配慮しつつ衛生環境の改善

を訴える公共施設の存在は貴重である。今後は学校の環境教育のデモンストレーションのみならず、地域の環境保全のシンボルとなることを期待している。



材料入り口とガス取り出し口：簾誼小学校

バイオガス施設はすでに豚の糞を利用してガスが産出されるまでの状況にあるが、安定的なガス供給とシステムの安定に時間を要する。



バイオガス圧計：簾誼小学校

(9) 太陽熱温水器とシャワー室（新規設置）

4部屋 24 基を備えるシャワー棟がバイオガス施設の側に建設された。



シャワー棟とシャワー室：簾誼小学校

温水器は日が当たっていれば、一日約 30 人がシャワーを浴びることができる。



太陽光温水器：簾誼小学校

チェックリストを用いた変化も指標のひとつと

して見ている。ただし、この指標は終了時点で満たすことを目標としている。

施設・環境改善について、基礎調査時で用いた施設・環境チェック項目が、プロジェクト前後でどれだけ変化したか、確かめる指標を入れている。中間時の評価は次のとおり。

白雲小学校の施設を含めた衛生環境に関する個々の環境（分子：適性項目数、分母：チェック項目数）

2-1 村・小学校の共同トイレ(8/13→不明*)

2-2 給水環境(4/14→不明*)

2-3 ゴミ・廃棄物(5/14→不明*)

*果科小学校への視察ができなかったため。

籐誼小学校の施設を含めた衛生環境に関する個々の環境（チェックシート）

3-1 小学校の共同トイレ(7/13→9/13)

3-2 給水環境(6/11→10/11)

3-3 ゴミ・廃棄物(4/11→6/11)

果科小学校の施設を含めた衛生環境に関する個々の環境（分子：適性、分母：チェック項目）

2-4 村・小学校の共同トイレ(8/13→不明*)

2-5 給水環境(4/14→不明*)

2-6 ゴミ・廃棄物(5/14→不明*)

*果科小学校への視察ができなかったため。

籐誼小学校の施設を含めた衛生環境に関する個々の環境（チェックシート）

3-4 小学校の共同トイレ(7/13→9/13)

3-5 給水環境(6/11→10/11)

3-6 ゴミ・廃棄物(4/11→6/11)

6-4 保護者や村人との関係

プロジェクトの終盤での成果として、「健康と衛生に関する小学校と住民の関係が構築される」ことを期待している。

研修に参加した教師らによるモニタリング記録表で、ポスター授業による児童から保護者への働きかけ、子供の日での発表会での住民への働きかけなどを把握擦る予定。

6-5 利用できるノウハウ

プロジェクトのデザインでは、「小学校の健康と環境衛生プログラムを支援する資源センターが構築される」こと、つまり教育研修やプロジェクトに参加した学校の経験がなんらかの形でほかの関係者や学校に生かされるために、情報とノウハウを蓄積しておく場を継続的に確保することを求めている。

ひとつは協会と現地関係者が情報とノウハウを公開し普及する活動を継続することである。もうひとつはネットの中で経験とノウハウを取り出せるようにすることである。これらはこれからの課題となっている。

6-6 プロジェクト目標にどれだけ近づけたか

施設面の整備による衛生環境整備の改善は、ほぼ当初の期待どおりの結果が得られている。また鍵となる教師への研修は期待どおりの結果を得た。今後はソフト面において、教師から児童へ、さらには児童から児童、児童から保護者に何がどの程度の広がりをもせるのか把握する必要がある。

7. 課題と次年度の計画概要



パネルシアターデモ「100万回生きたねこ」：第2回研修にて

2009年度の活動は、衛生環境・教育に関する実践力を強化するための研修と白雲小学校・籐誼小学校の衛生施設改善が主なものだった。2009年度は2回の研修内容の充実化に主眼をおいた。またプロジェクトによる対象小学校の施設改善は2009年度中に完了したが、教育当局による分校の統合方針や現地側の負担が思うように進まず、当初のプロジェクト計画から外した施設改善が一部あった。研修の成果—学校現場での実践力は施設整備がされたのち、少なくとも1年間以上モニターするデザインだった。

2010年度は、2009年度の研修と施設改善を土台とし、学校現場で衛生教育に関わる実務や環境改善、子供たちの知識・態度がどのように変化していくのか、またそれぞれ関係者がどのように関与すべきか、施設の維持管理を含めた持続性の方策について、プロジェクト活動の中で追跡していく。そのためのモニタリング・評価が活動の大半を占めることになる。

2010年度の最初の訪問では、研修の成果がどのように生かされているのか、いないのか、また施設はどのように使われているのかを関係者からの聞き取りと観察、意見交換を通じて把握する。

8. 付録：作成資料と記録



主役たち：福貢県遠福中心小学校にて

8-1 第 I 四半期

<資料とツール>

- (1) プロジェクト概要（和文と中文、英文）
- (2) PDM（和文と中文）
- (3) 活動スケジュール（和文と中文）
- (4) 0601_活動モニタリングシート（プロジェクト管理用）
- (5) 0611_実施体制図
- (6) 関連資料リスト
- (7) 学校別施設改善の仕様
- (8) ペーパーサーブサンプル（命の循環）
- (9) その他（経費積算シミュレーション、専門家契約書など）

<記録と報告>

- (10) 第 1 回派遣活動・日程計画書
- (11) 0610_白雲村訪問記録
- (12) 0611_建水県教育局訪問記録
- (13) 0611_白雲小学校会議メモ
- (14) 0612_雲南省僑務弁公室メモ
- (15) 0612_雲南省僑務弁公室協議記録
- (16) 0609_エコ・ネットワーク訪問記録
- (17) 0625_水と衛生セミナーでのプロジェクト紹介プレゼン
- (18) 第 1 回派遣記録ビデオ・写真集
- (19) 第 1 回派遣帰国報告書
- (20) JICA 第 I 四半期報告書（モニタリングシー

ト、支出状況報告、業務従事者派遣実績報告書)

8-2 第Ⅱ四半期

<研修>

- (1) 研修の案内
- (2) 研修基本方針
- (3) 研修概要 (和文と中文)
- (4) 研修時間割表 (和文と中文)
- (5) 研修参加者の手引き (do and do not) (和文と中文)
- (6) テーマ別進行と支援指導要領
- (7) 研修会場の準備とチェック
- (8) 研修用資材購入リスト (フィールド研修・活動を含む)
- (9) 研修評価質問票 (和文と中文)
- (10) 研修理解度テスト (和文と中文)
- (11) 期待する姿ーカートパトリック法
- (12) 100 万回の手洗いうた
- (13) ポスターサンプル (ネット上のもの、プロジェクトチームで準備したものなど)
- (14) パネルシアターサンプル (これなーに?、ヤオミンは何処に行った?、歯磨き、魔方陣、みんなのうた、身体のしくみ、どうする20年後? 元気村とインフルエンザ村)
- (15) ペープサートサンプル (笑い顔、カエル、手にばい菌、サッカーのリフティング、オットセイの玉突き、シャワーって気持ちいい!、学校で働く人たち、縄跳び、ゴミは命に帰ってくる! 元気村とインフルエンザ村)
- (16) 元気村とインフルエンザ村シナリオ (和文と中文)
- (17) 下痢と予防-ペープサートシナリオ

(18) シャワーって気持ちいい-ペープサートシナリオ

(19) プロジェクトの目的・成果指標に対応したベースラインを決定するための質問票群

(20) 0822_白雲小学校研修日程表 (和文と中文)

<資料とツール>

- (21) 0701 活動モニタリングシート(プロジェクト管理用)
- (22) WHO 縮小版 衛生状況質問票 (中国全球学校学生健康调 中国版)
- (23) 0807_ベースライン調査票 (中文)
- (24) 中心学校 校医室 医薬品一覧 (和文)

<記録と報告>

- (25) 第2回派遣活動計画と日程
- (26) 第1回教師研修 (昆明) の参加者名簿
- (27) 第1回教師研修 (白雲小学校) の参加者名簿
- (28) 第1回教師研修の中国人ボランティア名簿
- (29) 0819 第1回研修-期待と不安 (3日分)
- (30) 0812 雲南省太陽光訪問記録
- (31) 0820 手洗いPJ 各学校物品配布一覧
- (32) 0820 参加者による昆明での研修評価ー困難なこと
- (33) 0820 参加者による研修評価 (昆明)
- (34) 0825 遠福 (籐誼小学校の中心学校) 小学校訪問記録
- (35) 0825 籐誼小学校訪問記録
- (36) 0825 怒江州福貢県教育局訪問記録
- (37) 0825 籐誼小学校新マップ
- (38) 0826 匹河中心小学校訪問記録
- (39) 0828 建水県教育局訪問記録
- (40) 0903 参加者による研修評価 (白雲小学校)
- (41) 0903 白雲小学校フィールド活動記録 (斎藤

順子)

- (42) 第2回派遣記録ビデオ・写真集
- (43) 『教師がつくるキレイものがたり』第1回教師研修の記録 5分 DVD
- (44) 100万回手洗いPJレポート(斎藤順子)
- (45) 第Ⅱ四半期活動報告書
- (46) JICA 第Ⅱ四半期報告書(モニタリングシート、支出状況報告、業務従事者派遣実績報告書)

8-3 第Ⅲ四半期

<記録と報告>

- (1) 1001 第Ⅲ四半期活動計画書
- (2) 1001 活動モニタリングシート(プロジェクト管理用)
- (3) 1127 JICA 第2四半期モニタリング会合メモ
- (4) 1220 怒江州福貢県藤誼小学校バイオガス視察報告(林、雲南支部)
- (5) 藤誼小学校・白雲小学校訪問時の写真
- (6) JICA 第Ⅲ四半期報告書(モニタリングシート、支出状況報告、業務従事者派遣実績報告書)

8-4 第Ⅳ四半期

<研修>

- (1) 研修の案内(和文と中文)
- (2) 研修基本方針
- (3) 研修概要(和文と中文)
- (4) 研修時間割表(和文と中文)
- (5) 参加者のための手引き(do and do not)(和文と中文)
- (6) テーマ別進捗と支援指導要領
- (7) 研修会場の準備とチェック
- (8) 研修評価質問票(中文)

- (9) 授業指導計画書見本集(和文と中文)
- (10) 北京・ウルムチとのベースライン調査比較(斎藤順子)
- (11) 子供の病気と応急手当、経口補水液レジメ(斎藤順子)
- (12) 石けんプロモーションシナリオ(和文と中文)
- (13) 小さな衛生指導員シナリオ(和文と中文)
- (14) 補水液を飲んで、下痢を乗り切ろう！(和文と中文)
- (15) 衛生教育－西遊記シナリオ(中文)
- (16) トレーシングペーパーの使い方(和文と中文)
- (17) ロールプレイのしかた(和文と中文)
- (18) 研修後に実施してもらうこと(和文と中文)
- (19) シナリオ書式(和文と中文)
- (20) パネルシアターの技術(和文と中文)
- (21) ペープサートの技術(和文と中文)
- (22) 衛生教育スターキットの内容リスト
- (23) 衛生環境改善に関するバイオガスの応用(陳永松、中文)
- (24) ポスターサンプル(君に石けんを！)
- (25) パネルシアターサンプル(経口補水液で下痢を乗り切れ！)
- (26) ペープサートサンプル(小さな衛生指導員、君に石けんを！)
- (27) トレーシングペーパーサンプル(これなに？、ヤオミンは何処に行った？、元気村とインフルエンザ村、西遊記、小さな衛生指導員、君にせっけんを！経口補水液で下痢を乗り切れ！)

<資料とツール>

- (28) 活動スケジュール(中文)
- (29) 0101 活動モニタリングシート(プロジェクト管理用)
- (30) 使用済み固形石けん収集の協力について(僑

2009 年度活動報告書

務弁公室あて)

(31) その他 (レターなど)

<記録と報告>

(32) 第Ⅳ四半期活動計画書と日程

(33) 第 2 回研修参加者名簿

(34) 第 2 回研修ボランティア名簿

(35) 0107_エコ・ネットワーク訪問記録

(36) 0111_遠福中心小学校訪問記録

(37) 0111_匹河中心小学校訪問記

(38) 0112_籐誼小学校訪問記録

(39) 0115_白雲小学校訪問記録

(40) 0201_籐誼小学校訪問記録

(41) 0210_昆明広標科学技術会社訪問記録

(42) 第 3 回派遣記録ビデオ・写真集

(43) 『君に石けんを！』教師が石けん調達にがんばるものがたり (ペープサート)、ビデオ 5 分

(44) 『小さな衛生指導員』子供たちが学校で取り組む衛生活動のものがたり (ペープサート)、ビデオ 3 分 28 秒

(45) 『木と鳥の会話』遠福小学校が作ったペープサート、ビデオ 3 分 24 秒

(46) JICA 2009 年度業務完了報告書 (業務完了報告書、経費精算報告書、業務従事者派遣実績報告書)

(47) 2009 年度活動報告書

8-5 研修参加者リスト

(1) 第 1 回研修参加者 (昆明)

匹河中心小学校

李建梅

施益普

施正方

果科小学校

和小昌

胡建春

籐誼小学校

郭智明

鄧大明

胡蘭英

雀全輝

和慶香

余福元

遠福中心小学校

友言早

張大光

趙麗芳

和貴忠

李碧華

馮雄

周興澤

恰葉奪

木楞才

木成華

木益生

木新平

(2) 白雲小学校出張研修

李国文 校長

马发芬

鵬春华

兰玉华

许宝生

杨会芬

和有明

博文

(3) 第2回研修参加者

簾誼小学校

陈康	chen kang
福义生	fu yisheng
雀全辉	que quanhui
超季春	chao jichun
木益生	mu yisheng
和庆香	he qingxiang

遠福中心小学校

有叶早	you yezao
胡玉英	hu yuying
此怒底	ci nudi
杨璵	yangying
木春英	mu chunying
李记才	li jicai

匹河中心小学校

施正方	shi zhengfang
丰向忠	feng xiangzhong
和玉梅	he yumei
尹香莲	yin xianglian
肖三华	xiao sanhua
普付益	pu fuyi

果科小学校

安跃林	an yuelin
李小华	li xiaohua

白雲小学校

何有明	he youming
彭春华	peng chunhua
李国文	li guowen
曹保林	cao baolin
杨会仙	yanghuixian
杨会芬	yang huifen

8-6 ボランティアリスト

(1) 第1回研修

廖思难
袁旖
陆燕
陆珊珊
张小清
杨勇
唐蕊
何舒
弓削田裕子 (インターン)
弓削田豊

(2) 白雲小学校出張研修

袁旖
不明 (女性)

(3) 第2回研修

陆杨芑子	云南师范大学
李微	云南师范大学
晋春娥	云南师范大学
徐尉岚	青岛农业大学
曹婷	廊坊师范大学 (河北)
王海琳	厦门大学
热合木吐拉	新疆师范大学体育学院
八田祐佳	苏州大学
杜佳	云南大学
松野 志歩	雲南師範大学外語学院 日語系 (老师)
陈建明	昆明理工大学 (地域发展研究所)

8-7 関係者リスト

- (1) 僑務弁公室
張鵬 室長
張新明 副主任（環境・衛生担当）
- (2) 雲南エコ・ネットワーク
陳永松 代表
劉リ※波（※人偏に麗）
- (3) 建水県教育局
楊勇 副局長
普銳 インフラ整備担当
李永明 財務担当
- (4) 白雲小学校
李国文 校長
- (5) 岔科鎮中心小学校
高 校長
帳恒勇 副校長
- (6) 福貢県教育局
余福生 ハード施設担当
- (7) 福貢県 統一戦線部
左 副部長
李 主任
- (8) 籐誼小学校
王志波 校長
胡南英 副校長
- (9) 遠福中心小学校
有叶早 校長
李 副校長
- (10) 果科小学校
和小昌 校長
- (11) 匹河中心小学校
孔三才 小中学校長
施金波 中心小学校長
施益普 中心長学校副校長

8-8 協会プロジェクトチーム

- 薄田榮光 プロジェクト・マネジャー
七田怜 本部（～2009.9）
山田美葉 本部（2009.10～）
林娜 雲南支部
内海圭子 雲南支部（～2010.3）
斎藤順子 保健衛生専門家

9. 添付：プロジェクト・デザイン・マトリックス

PDM（プロジェクト・デザイン・マトリックス）

平成 22 年 1 月 31 日作成

事業名（実施期間）：雲南少数民族地域での学校を中心とした健康・環境衛生改善プロジェクト（2009 年 5 月 28 日～2011 年 3 月 31 日：1 年 9 カ月間）100 万回の手洗いプロジェクト

対象地域：中国雲南省 建水県岔科鎮白云村（白云村小学校学校圏、イ族）、福貢県匹河郷果科村（果科小学校学校圏、独龍族・怒族）、福貢県架科底郷阿達村（藤誼小学校学校圏、リス族）

受益者層（ターゲットグループ）：3 学校圏の人口 14,428 人、3 小学校の生徒数 630 人、教師・学校保健関係者 50 人

プロジェクト要約 (Narrative Summary)	指標 (Objectively Verifiable Indicators)	指標データ入手手段 (Means of Verification)	外部条件 (Important Assumptions)
上位目標 (Overall Goal) : 1 学校保健関係者が健康と衛生の実践教育として、プロジェクトの成果を取り入れる 2 小学校圏の住民が衛生に関する知識・態度・行動に関心を持つようになる。	1 対象とした学校以外での実践活動を取り入れた学校数（対象となった生徒数） 2 小学校圏の両親・住民の衛生に関する知識・態度の変化	1 建水県岔科鎮と副貢県匹河郷、架科底郷の中心小学校、建水教育局、福貢教育局 2 健康・衛生に関する知識・態度・行動変化調査	
プロジェクト目標 (Project Purpose) : 1 小学校の健康・環境衛生に対する対処能力が高まる	1-1 小学生の望ましい衛生意識・態度・行動が 30%増加 1-2 学校衛生環境チェックの適合項目が 30%増加 1-3 自分自身と同様に同僚（同級生）も健康・環境衛生に対する対処能力を高まったと自覚する参加者が 50%以上	1-1 各教師によるアセスメント（活動前と終了時） 1-2 チェックリストによるモニタリング記録（終了時） 1-3 各教師による挙手アセスメント（終了時）	少数民族地域の支援に対する優先度と衛生教育の重要性に対する方針に変わりはない。
成果 (Output) : 1. 教師・学校保健関係者の健康と衛生に関する実践的な指導能力が高ま	1-1 パネルシアター・ペープサート・ポスターを使った授業時間数(出席者	1-1 学校ごとのパネルシアター・ペープサート、ポスター授業モニタリング	教師の配置計画に大きな変化はない。

2009 年度活動報告書

る	数) 1-2 自分で企画したポスター授業計画、またはパネルシアター、ペープサート授業計画・シナリオ数 1-3 研修終了後の健康・衛生指導に関する自己評価(研修参加者の 50%以上が肯定評価) 2-1 小学校 5-6 年生が作成したパネルシアターを見た全生徒数の割合 2-2 チェックリストを用いた小学校 1-4 年生の衛生に対する態度、行動が 30%向上 施設の基本的改善と個々の仕様に関する要求項目の 50%以上が改善される。 ポスター展覧会、パネルシアター発表会、オリジナル曲発表を行った地域・学校のイベントへの参加数 5-1 ネットアクセス数 5-2 ニュースレター発行数	シート 1-2 学校ごとのパネルシアター・ペープサート、ポスター、オリジナルのものがたりシナリオ数 1-3 グループ活動モニタリングシート 2-1 教師による 5-6 年生のペープサート活動の観察 2-2 教師による 3-4 年生への観察 施設仕様書のチェック (中国側) 各学校へのインタビュー 5-1 アクセスカウンター 5-2 プロジェクト記録	研修で導入されるプログラムや教材に対する反対や抵抗がない
活動 (Activities) :	投入 (Inputs)		
プロジェクト調整・管理			
0-1 プロジェクトの概要(PDM)と活動モニタリング計画表を中国語に翻訳する。	日本側	現地側	
0-2 雲南省華僑帰国連合会は、建水県	日本側	相手国実施機関	

2009 年度活動報告書

帰国華僑連合会と建水県教育局、福貢県統一戦線部と福貢教育局を通じて各関係者とのプロジェクト計画（PDM と活動モニタリング計画）の合意と協力を確認する。 0-3 日本・雲南聯誼協会と雲南省華僑帰国連合会で、プロジェクト計画の内容を再確認し、合意する。 0-4 雲南省華僑帰国連合会は、建水県帰国華僑連合会と建水県教育局、福貢県統一戦線部と福貢教育局を通じて、「健康・衛生教育研修」の参加者の参加を確認する。 0-5 衛生環境の啓発ソング・・手洗いの歌・・食べる前に手を洗うのは自分を病気から守るため・・・トイレの後に手を洗うのは、みんなを病気から守るため・・などのメッセージを盛り込んだオリジナル曲を募集する。(4-1 と同じ) 0-6 健康・衛生教育研修のための派遣専門家を確保する（リクルート） 0-7 健康・衛生教育研修のための施設・宿泊、教材等を準備する。教材は、研修のための教材に加え、彼らの現場での実践に必要な教材も含む。 0-8 教師・学校保健関係者が実施する仲間教育プログラムとポスター、パネルシアターを利用した健康・衛生啓発プログラムをモニタリングする。 0-9 雲南省華僑帰国連合会は、建水県帰国華僑連合会と建水県教育局、福貢県統一戦線部と福貢教育局を通じて、「健康・衛生教育フォローアップ研修」の参加者の参加を確認する。 0-10 フォローアップ研修のための施	【人材】 ・ プロジェクト・マネジャー（日本人）1 名 ・ プロジェクト調整スタッフ（日本人）1 名 ・ 現地調整員 1 名（中国人）1 名 ・ 健康・衛生教育専門家（日本人）1 名 【資材】 ・ 教師・学校研修に必要な資材 ・ 白雲村小学校、簾誼小学校、果科小学校に対して体温計や救急箱、教師と児童の活動にかかる教材 【施設】 ・ 白雲村小学校、簾誼小学校、果科小学校の安全な水の安定的な供給、共同トイレ改善にかかる建設資材の提供 ・ 白雲村小学校、簾誼小学校、果科小学校の太陽熱温水器の提供	【人材】 ・ リーダー1 名 ・ サブリーダー1 名 ・ 調整・連絡要各県 1 名 ・ 調整・連絡要各鎮・郷 1 名 ・ 白雲村小学校、簾誼小学校、果科小学校校長 各 1 名 ・ 建水県岔科鎮と副貢県匹河郷、架科底郷の中心小学校の連絡係 各 1 名 ・ 教育局調整 各県 1 名 ・ 学校の小規模施設設計専門家各県 1 名 【研修参加者：教師・学校保健関係者】 40 名 【施設】 ・ 白雲村小学校、簾誼小学校、果科小学校の安全な水の安定供給、共同トイレ改善、太陽熱温水器の設置にかかる資機材の運送費と建設費 そのほか 【研修講師】 バイオガス施設と環境衛生 (YEN) 3 名	前提条件（Pre-conditions）： 夏休みと冬休み中に教師・学校保健
--	---	---	--

2009 年度活動報告書

設・宿泊、教材等を準備する。
0-11 終了時評価を実施する。

教師・学校保健関係者の健康・環境衛生の実践能力構築

- 1-1 健康・衛生教育研修の枠組みを確認し、概要を検討する。
- 1-2 白云小学校または、昆明近郊の小学校で生徒の生活に関する「チェックリスト」と研修の一部をテストする。
- 1-3 健康・衛生教育研修の計画を策定する。
- 1-4 健康・衛生教育研修を実施する。
- 1-5 健康・衛生教育研修に関する報告書とフォローアップ研修案をまとめる。
- 1-6 教師・学校保健関係者は、研修で作成したアセスメント計画・「こどもたちの衛生意識・態度・行動と環境チェック」に基づいて、ベースラインを把握する。
- 1-7 教師・学校保健関係者は研修で作成した各自の仲間教育計画に基づき、小学校 5・6 年生を対象とした仲間教育プログラムを実施する。
- 1-8 教師・学校保健関係者は研修で作成した「ポスター・パネルシアターを利用した健康・衛生啓発プログラム」を実施する。
- 1-9 フォローアップ研修計画を策定する。
- 1-10 教師・学校保健関係者は、研修で作成したアセスメント計画・「こどもたちの衛生意識・態度・行動と環境チェック」に基づいて、ポストプログラムの状況を把握する
- 1-11 フォローアップ研修を実施する。
- 1-12 健康・衛生教育指導者(フォローア

関係者が健康・衛生教育研修、フォローアップ研修に参加するための時間を確保でき、参加する意志があること。

「保健と衛生」や「美術」の授業時間、または放課後に小学校 5・6 年生を対象とした仲間教育プログラム、ポスターを利用した健康と衛生啓発プログラムの時間を確保できること

小学校の衛生環境の改善のための施設改善に対する費用分担が支持されること。

2009 年度活動報告書

ップ研修に関する報告書をまとめる。 1-13 教師・学校保健関係者は、フォローアップ研修で、改訂した計画に基づいて仲間教育と「ポスター・パネルシアターを利用した健康・衛生啓発プログラム」を継続する。 <u>小学校 5・6 年生の健康・環境衛生に関する対処能力の構築</u> 2-1 教師・学校保健関係者は、研修で作成したアセスメント計画・「こどもたちの衛生意識・態度・行動と環境チェック」に基づいて、ベースラインを把握する（1-6 と同じ）。 2-2 教師が仲間教育を実施するための基本的な知識とスキルを小学校 5・6 年生に教える。 2-3 小学校 5・6 年生が仲間教育のリーダーを選ぶ。 2-4 リーダーに仲間教育プログラムの記録方法を教える。 2-5 小学校 5-6 年生は、学んだスキルを用いて日常生活（特に寄宿生活）の中で同級生や 1-4 年生のケアを行う。 2-6 教師はリーダーを定期的な集めて、進捗の状況や問題を記録する 2-7 教師は、研修で学んだ実践方法に基づいて、5・6 年生のポスター・パネルシアター作成授業を行う。 2-8 5・6 年生は作成したポスター・パネルシアターを自分の家に持ち帰り、両親等に説明する。 2-9 ポスター・パネルシアターに対する両親の反応や対処について話し合う。 2-10 ポスター・パネルシアターについ			
--	--	--	--

2009 年度活動報告書

て選定会を行い優秀作品は姉妹校と共同で展覧会を開催する。 2-11 ポスターを出身むら等に貼る。 2-12 教師・学校保健関係者は、研修で作成したアセスメント計画・「こどもたちの衛生意識・態度・行動と環境チェック」に基づいて、ポストプログラムの状況を把握する。 (1-10 と同じ) <u>小学校の衛生環境向上のための施設改善</u> 3-1 白云小学校内の教育棟屋上の給水槽設置と手洗い場設置、学校前共同トイレ改善、バイオガストイレ支援について施設改善計画を確定する。 3-2 果科小学校の手洗い場を含む貯水施設の設置、共同トイレの改善、太陽光温水器の改善計画を確定する。 3-3 簾誼小学校の貯水施設の改善、共同トイレの改善（バイオガス化を含む）、太陽熱温水器とシャワー室設置の改善計画を確定する。 3-4 各計画に基づいて、施設を改善する。 3-5 各計画どおりに施設が改善されたことを確認する 3-6 教師・学校は、独自のチェックによって生徒の健康・衛生環境の改善を実践する（宿舍のカーテンの取り付けや上水器の設置など） <u>健康と衛生に関する小学校と小学校圏の住民との関係の強化</u> 4-1 衛生環境の啓発ソング・手洗いの歌・食べる前に手を洗うのは			
--	--	--	--

2009 年度活動報告書

自分を病気から守るため・・・トイレの後に手を洗うのは、みんなを病気から守るため・・・などのメッセージを盛り込んだオリジナル曲を募集する 4-2 健康・衛生教育研修で曲を参加者に覚えさせる 4-3 地域・学校のイベントで啓発ソングを披露する 4-4 地域・学校のイベント開催時に、ポスター・パネルシアターについて選定会を行い優秀作品は姉妹校と共同で展覧会を開催する。(2-10と同じ) <u>衛生教育に関する資源センターの構築</u> 5-1 衛生教育に関するライフスキルや仲間教育などについてプロジェクトで使ったツールや参加者からのコメント・貢献をネットで関係者に公開する 5-2 ニュースレターを発行し、学校保健関係者に配布する			
--	--	--	--

仲間教育：ペープサートなど研修の成果を利用した子どもから子どもたちへの衛生教育活動。

ポスター授業：子どもから保護者・住民への啓発活動

10. 添付：ベースライン調査データ



100 万回の手洗いプロジェクトでは 2009 年 9 月に白雲小学校と匹河中心小学校、籐誼小学校の新 5 年生 267 人を対象とした衛生行動に関するアンケート調査を実施している。この質問票を使った子供たちへの調査は、先生たちの研修評価や施設改善による衛生環境チェックリストと並んで、プロジェクトの達成度を観察する重要な指標となっている。

本格的な研究調査であれば、プロジェクトを実施していない学校や地域の学校を代表するサンプリング方法を検討すべきであるが、費用や人員、時間などの制約から、この調査ではプロジェクトの活動前（ベースライン）とプロジェクト活動が終了時する 2010 年 11 月頃の 2 回の調査を比較分析するデザインとなっている。調査では独自の調査票の開発は行わず、「地球規模の学校をベースとした生徒健康調査:Global School-based Student Health Survey: GSHS」を参考に関連ある質問項目だけを抽出した。GSHS は WHO の支援を受けて世界 30 カ国以上で実施された実績があり、国・地域で比較検討が可能である。GSHS の範囲は広く、アルコールや喫煙、衛生行動、メンタルヘル

ス、体育、性、暴力とケガなど幅広い項目がある。

調査は 9-14 歳(11 歳と 12 歳が 73.9%を占める)の小学生 5 年生が対象であるのに対し、GSHS は 11-16 歳(14-15 歳が 51-68%を占める)を対象としている。中国も部分的ではあるが、2003 年に GSHS を北京と武漢、ウルムチ、杭州で実施している。

「ベースライン調査データ」は、入力データを Epi-info3.3.1 とエクセルを用いて、第 1 回目の調査の集約データをまとめたものである。ただし、質問紙による調査は様々なバイアスがあり、ここに記述するのは、あくまでも得られたデータの要約であることに留意されたい。また同じ GSHS の質問項目を活用しているが、対象と方法、目的がこの調査と GSHS で異なるため、厳密な意味での中国や他の国が実施した GSHS と比較はできない。とはいえ、参考として、いくつかの項目について WHO のサイトにあるデータとこの調査データを並べてみた。ただの興味からに過ぎない。

<属性>

Q1 対象：3 校の 5 年生

学校名	頻度	%	累積パーセント
匹河	144	53.9%	53.9%
白雲	70	26.2%	80.1%
籐誼	53	19.9%	100.0%

合計	267	100.0%	100.0%
----	-----	--------	--------

2009 年度活動報告書

Q2 性別

性別	頻度	%	累積パーセント
男	137	51.7%	51.7%
女	128	48.3%	100.0%
合計	265	100.0%	100.0%
Missing	2		

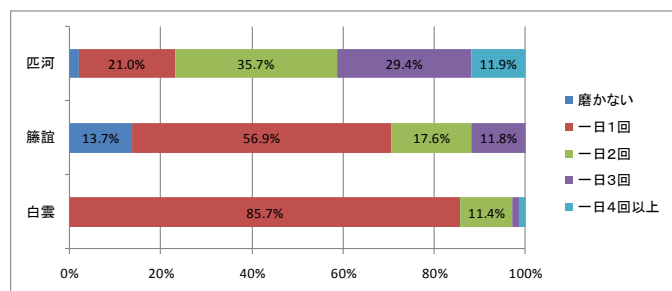
Q3 年齢構成

年齢	頻度	%	累積パーセント
9 歳以下	3	1.1%	1.1%
10 歳	18	6.8%	8.0%
11 歳	106	40.2%	48.1%
12 歳	89	33.7%	81.8%
13 歳	40	15.2%	97.0%
14 歳以上	8	3.0%	100.0%
合計	264	100.0%	100.0%
Missing	3		

小学 5 年生といっても年齢に幅がある。どの学校も同じように年齢幅がある。少数民族でこの傾向強い？

<グラフ: 抜粋>

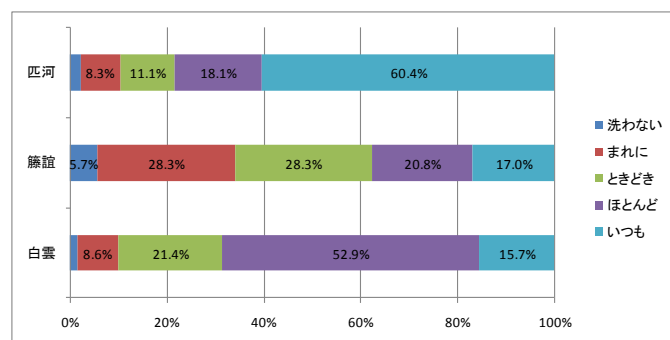
Q4 過去 30 日間で、いつも一日何回歯を磨いていましたか？



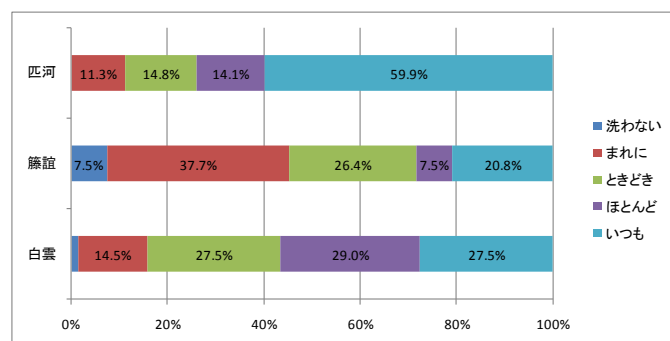
小学校は通常一日 2 回の食事。白雲小学校を観察では朝起きたときに顔洗いと一緒に歯を磨いていた。指導されているのか？

一度も歯磨きしていない子供が藤誼小学校では 13.7%、匹河小学校では 2.1%であったが、白雲小学校では 0%であった。白雲小と藤誼小では一日 1 回が多いが、匹河小では一日 2 回がもっとも多かった。

Q5 過去 30 日間で、毎日どのくらいの頻度で食事前

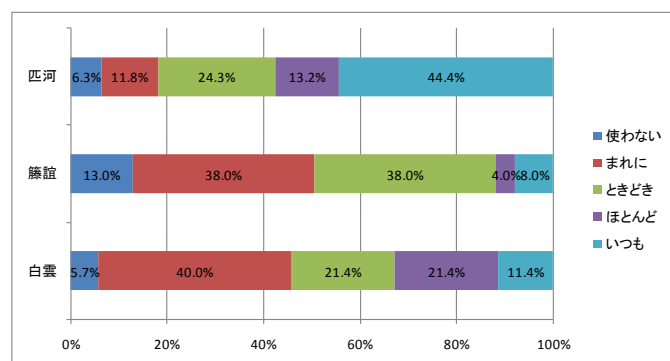


Q7 過去 30 日間で、トイレを使用した後にどのくらいの頻度で手を洗いましたか？



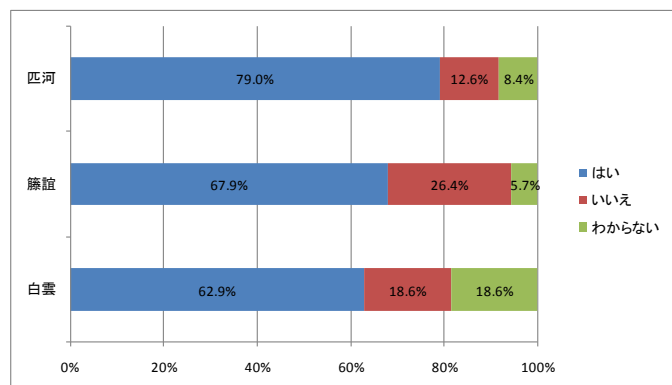
「ほとんど」と「いつも」を合わせた数値でみると白雲小と匹河小がそれぞれ 67%、78.5%がたいてい手洗いしていると回答しているが、藤誼小は 37.8%に過ぎない。

Q9 過去 30 日間で、手を洗うときどのくらいの頻度で石けんを使いましたか？



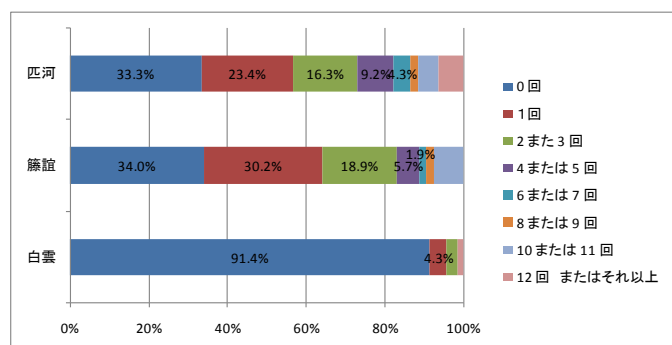
せっけんによる手洗いとなると、「ほとんど」と「いつも」を合わせた数値で白雲小と匹河小がそれぞれ、32.8%、57.6%、藤誼小は 12%となった。

Q13 過去 1 年間で、どのように寄生虫感染を予防するか教えてもらったことはありましたか？



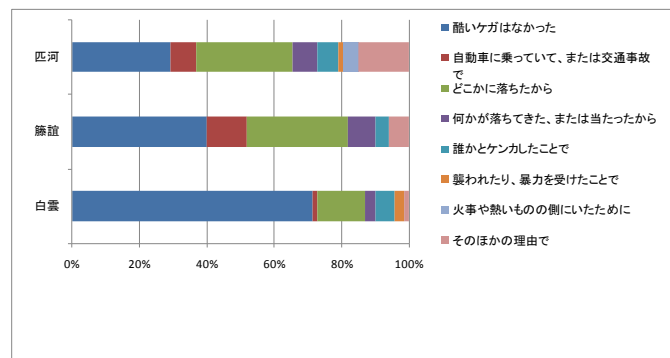
寄生虫については、白雲、藤誼、匹河小はそれぞれ 62.9%、67.9%、79.0%がすでに授業で学んだと回答した。

Q15 過去 12 ヶ月の間で、何回ぐらい深刻なけがをしましたか？



衛生関連の質問のほか、ケガや暴力に関する質問もいくつか組み込まれた。白雲小では 91.4%が深刻なケガはなかったと回答しているのに対し、怒河にある藤誼小と匹河小はそれぞれ、34.0% 33.4%と少なく 7 割以上がなにか深刻なケガが過去 1 年の間にあったという回答した。しかも複数のケガをした回答者が藤誼小では 35.8%、匹河小では 43.3%を占め、中には 10 回以上と回答した子供がそれぞれ 7.5%、11.4%いた。

Q17 過去 1 年の間に、あなたに起こったもっとも酷いケガについて、それを引き起こした主な理由は何ですか？



ケガの理由でもっとも多いのが、どこから落ちたというもので、次に交通事故、ものが当たったことによるもの、誰かとケンカしたことによると続く。落ちたというのが際だって高く、藤誼小と匹河小では約 30%を占める。

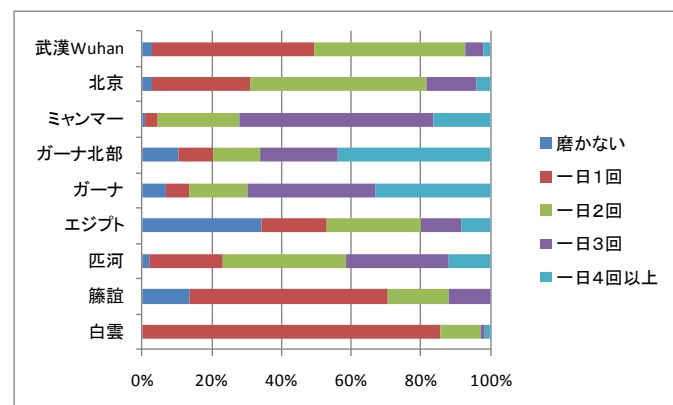
<比較:参考>

ベースライン調査は GSHS と同じ質問項目を用いているが、対象と方法、目的が GSHS と異なるため、厳密な意味での中国や他の国が実施した GSHS と比較はできない。以下は、参考として、いくつかの項目について WHO のサイトにあるデータとこの調査データを並べてみたものである。なお、GSHS は学校をランダムにサンプリングしているが、質問票はクラス全員を対象としている。ガーナはほかの国よりも一学年高い年齢層を対象としている。

各調査のプロファイル

	サンプル数	年齢	調査年
武漢	1947	11-16(13-14 が 66.5%)	2003
北京	2348	11-16(13-14 が 58.1%)	2003
ミャンマー	2806	11-16(13-14 が 52.4%)	2007
ガーナ北部	2548	11-16(15-16 が 63.1%)	2007
ガーナ	6236	11-16(15-16 が 51.2%)	2007
エジプト	5249	11-16(13-14 が 68.1%)	2006
匹河	144	9-14 (11-12 が 69.5%)	2009
籐誼	70	9-14 (11-12 が 84.9%)	2009
白雲	53	9-14 (11-12 が 74.3%)	2009

過去 30 日間での 1 日の歯磨き回数

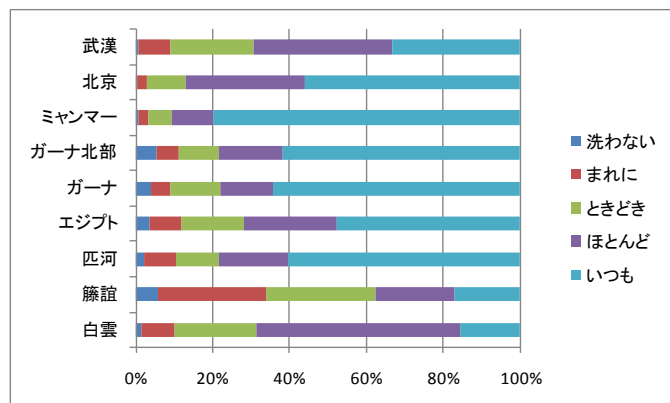


Q4 過去30日間で、いつも一日何回歯を磨いていましたか？

	白雲	籐誼	匹河	エジプト	ガーナ	ガーナ北部	ミャンマー	北京	武漢 Wuhan	3校
磨かない	0.0%	13.7%	2.1%	34.5%	6.7%	10.5%	0.7%	3.0%	2.7%	3.80%
一日1回	85.7%	56.9%	21.0%	18.5%	7.0%	9.7%	3.8%	28.1%	46.8%	45.10%
一日2回	11.4%	17.6%	35.7%	27.1%	16.7%	13.7%	23.6%	50.8%	43.5%	25.80%
一日3回	1.4%	11.8%	29.4%	11.5%	36.7%	22.3%	55.7%	14.3%	5.1%	18.60%
一日4回以上	1.4%	0.0%	11.9%	8.4%	32.9%	43.8%	16.3%	3.9%	2.0%	6.80%

中国は一日 1・2 回が多いのは食事が 2 回だから？

過去 30 日間での食事前の手洗い頻度

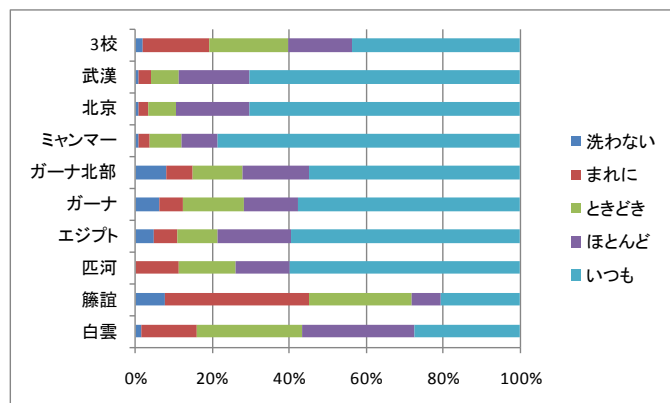


Q5 過去30日間で、毎日どのくらいの頻度で食事前に手を洗いましたか？

	白雲	籐誼	匹河	エジプト	ガーナ	ガーナ北部	ミャンマー	北京	武漢	3校
洗わない	1.4%	5.7%	2.1%	3.5%	4.1%	5.4%	0.6%	0.2%	0.7%	2.6%
まれに	8.6%	28.3%	8.3%	8.3%	4.9%	5.7%	2.2%	2.7%	8.3%	12.4%
ときどき	21.4%	28.3%	11.1%	16.4%	13.1%	10.6%	6.2%	10.2%	21.5%	17.2%
ほとんど	52.9%	20.8%	18.1%	23.9%	13.6%	16.4%	10.8%	30.7%	36.2%	27.7%
いつも	15.7%	17.0%	60.4%	47.9%	64.3%	61.9%	79.9%	56.2%	33.2%	40.1%

食事前の手洗いと箸文化と関係ある？手を使う食事は手洗い割合が高い？

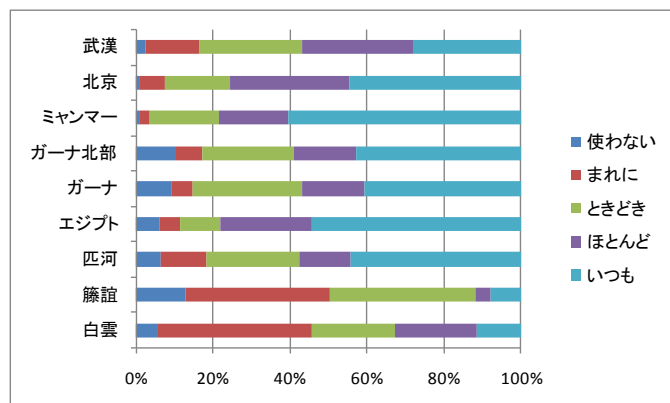
過去 30 日間でのトイレ後の手洗い頻度



Q7 過去30日間で、トイレを使用した後にどのくらいの頻度で手を洗いましたか？

	白雲	籐誼	匹河	エジプト	ガーナ	ガーナ北部	ミャンマー	北京	武漢	3校
洗わない	1.4%	7.5%	0.0%	4.6%	6.2%	8.1%	0.8%	0.7%	0.6%	1.9%
まれに	14.5%	37.7%	11.3%	6.3%	6.2%	6.6%	2.7%	2.4%	3.3%	17.4%
ときどき	27.5%	26.4%	14.8%	10.3%	15.9%	13.1%	8.5%	7.3%	7.4%	20.5%
ほとんど	29.0%	7.5%	14.1%	19.1%	13.9%	13.2%	9.1%	19.1%	18.4%	16.7%
いつも	27.5%	20.8%	59.9%	59.6%	57.8%	55.0%	78.8%	70.4%	70.3%	43.6%

過去 30 日間での石けんをつかった手洗い頻度

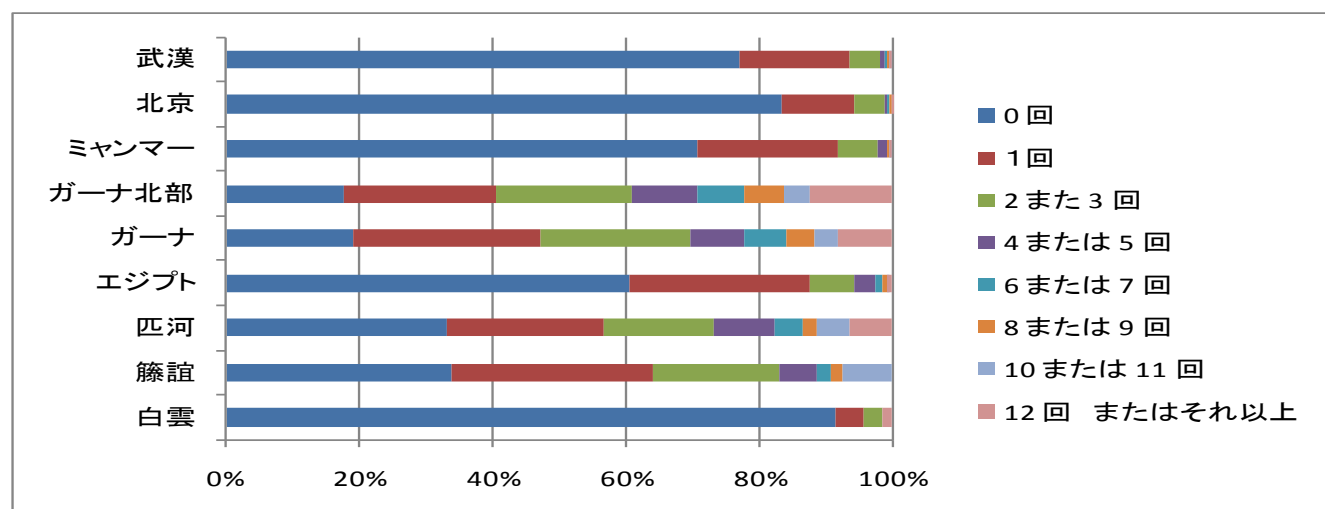


2009 年度活動報告書

Q9 過去30日間で、手を洗うときどのくらいの頻度で石けんを使いましたか？										
	白雲	藤誼	匹河	エジプト	ガーナ	ガーナ北部	ミャンマー	北京	武漢	3校
使わない	5.7%	13.0%	6.3%	5.9%	9.1%	10.3%	0.9%	1.1%	2.5%	7.5%
まれに	40.0%	38.0%	11.9%	5.6%	5.7%	7.0%	2.6%	6.3%	14.0%	24.3%
ときどき	21.4%	38.0%	24.3%	10.4%	28.4%	23.7%	17.9%	17.1%	26.7%	26.2%
ほとんど	21.4%	4.0%	13.2%	23.7%	16.0%	16.1%	18.1%	30.9%	28.7%	13.5%
いつも	11.4%	8.0%	44.4%	54.5%	40.8%	42.9%	60.5%	44.6%	28.1%	28.5%

隣国ミャンマーの手洗い割合、石けん利用が高い。「ほとんど」と「いつも」の合計は北京と同程度。藤誼と白雲のせっけん利用が低い。

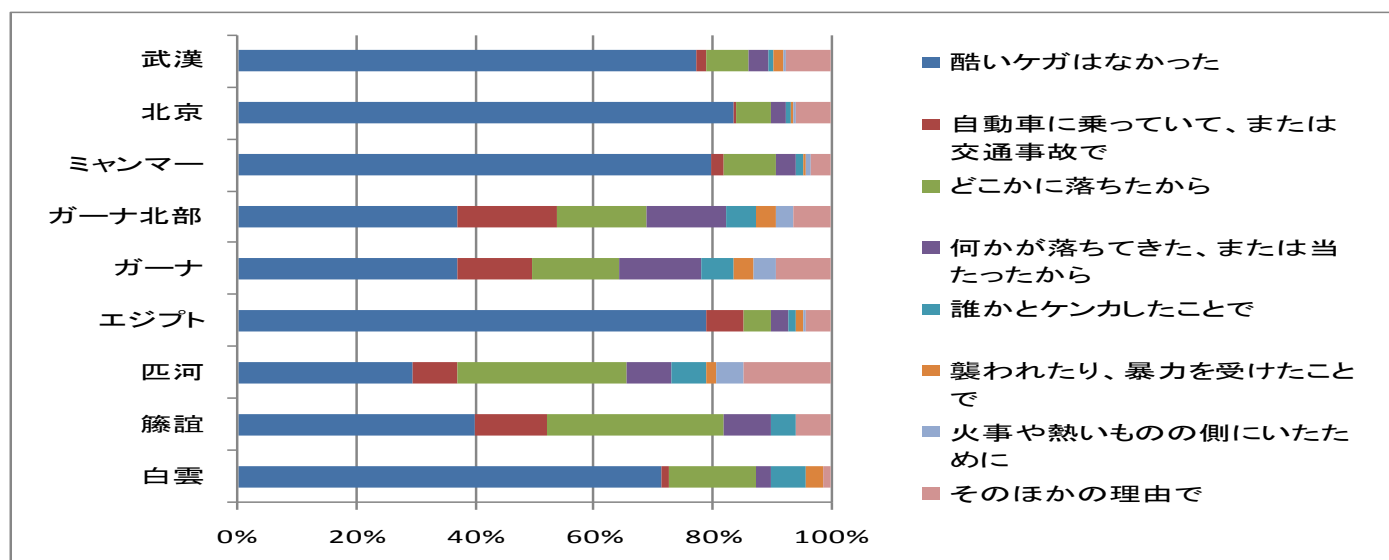
過去 12 ヶ月の間で深刻なケガした回数



Q15 過去12ヶ月の間で、何回ぐらい深刻なけがをしましたか？										
	白雲	藤誼	匹河	エジプト	ガーナ	ガーナ北部	ミャンマー	北京	武漢	3校
0 回	91.4%	34.0%	33.3%	60.5%	19.1%	17.6%	70.6%	83.5%	77.1%	48.9%
1 回	4.3%	30.2%	23.4%	26.9%	28.0%	23.1%	21.3%	10.8%	16.2%	19.7%
2 また 3 回	2.9%	18.9%	16.3%	6.9%	22.6%	20.4%	6.1%	4.4%	4.8%	13.3%
4 または 5 回	0.0%	5.7%	9.2%	3.1%	8.2%	9.5%	1.3%	0.6%	0.5%	6.1%
6 または 7 回	0.0%	1.9%	4.3%	1.0%	6.1%	7.2%	0.0%	0.3%	0.6%	2.7%
8 または 9 回	0.0%	1.9%	2.1%	0.6%	4.2%	6.0%	0.2%	0.1%	0.1%	1.5%
10 または 11 回	0.0%	7.5%	5.0%	0.2%	3.5%	3.7%	0.1%	0.0%	0.1%	4.2%
12 回 またはそれ以上	1.4%	0.0%	6.4%	0.8%	8.3%	12.6%	0.5%	0.3%	0.5%	3.8%

ケガと置かれた環境の厳しさとの関連が示唆される。藤誼、匹河、ガーナのケガ割合が際立って高い。

過去 12 ヶ月でもっとも深刻なケガをした理由



Q17 過去1年の間に、あなたに起こったもっとも酷いケガについて、それを引き起こした主な理由は何ですか？										
	白雲	藤誼	匹河	エジプト	ガーナ	ガーナ北部	ミャンマー	北京	武漢	3校
酷いケガはなかった	71.4%	40.0%	29.1%	78.9%	37.2%	36.8%	79.8%	83.5%	77.1%	42.9%
自動車に乗っていて、または交通事故で	1.4%	12.0%	7.5%	6.4%	12.2%	17.1%	2.2%	0.5%	1.9%	6.7%
どこかに落ちたから	14.3%	30.0%	28.4%	4.8%	14.9%	14.9%	8.9%	5.8%	7.1%	24.8%
何かが落ちてきた、または当たったから	2.9%	8.0%	7.5%	2.9%	13.6%	13.5%	3.3%	2.4%	3.1%	6.3%
誰かとケンカしたことで	5.7%	4.0%	6.0%	1.3%	5.6%	5.0%	1.2%	1.1%	1.2%	5.5%
襲われたり、暴力を受けたことで	2.9%	0.0%	1.5%	1.0%	3.3%	3.3%	0.5%	0.5%	1.6%	1.6%
火事や熱いものの側にいたために	0.0%	0.0%	4.5%	0.5%	3.8%	3.0%	0.9%	0.4%	0.5%	2.4%
その他の理由で	1.4%	6.0%	14.9%	4.3%	9.4%	6.3%	3.3%	5.8%	7.5%	9.4%

Personal hygiene

Q4 During the past 30 days, how many times per day did you usually clean or brush teeth?

	白雲	藤誼	匹河	3校
Never	0.0%	13.7%	2.1%	3.8%
1 times per day	85.7%	56.9%	21.0%	45.1%
2 times per day	11.4%	17.6%	35.7%	25.8%
3 times per day	1.4%	11.8%	29.4%	18.6%
4 or more times per day	1.4%	0.0%	11.9%	6.8%
	N=70	N=51	N=143	N=264

Q6 During the past 30 days, how often did you wash your hands before eating at school?

	白雲	藤誼	匹河	3校
Never	0.0%	7.7%	3.6%	3.50%
Rarely	21.4%	38.5%	15.3%	21.60%
Sometimes	30.0%	32.7%	13.9%	22.00%
Most of the time	31.4%	9.6%	10.2%	15.80%
Always	17.1%	11.5%	56.9%	37.10%
	N=70	N=52	N=137	N=259

During the past 30 days, how often did you wash your hands before eating? Q5

	白雲	藤誼	匹河	3校
Never	1.4%	5.7%	2.1%	2.6%
Rarely	8.6%	28.3%	8.3%	12.4%
Sometimes	21.4%	28.3%	11.1%	17.2%
Most of the time	52.9%	20.8%	18.1%	27.7%
Always	15.7%	17.0%	60.4%	40.1%
	N=70	N=53	N=144	N=267

Q7 During the past 30 days, how often did you wash your hands after using the toilet or latrine?

	白雲	藤誼	匹河	3校
Never	1.4%	7.5%	0.0%	1.9%
Rarely	14.5%	37.7%	11.3%	17.4%
Sometimes	27.5%	26.4%	14.8%	20.5%
Most of the time	29.0%	7.5%	14.1%	16.7%
Always	27.5%	20.8%	59.9%	43.6%
	N=67	N=53	N=142	N=264

Q8 During the past 30 days, how often did you wash your hands after using the toilet or latrine at school?

	白雲	藤誼	匹河	3 校
Never	1.4%	3.8%	2.1%	2.3%
Rarely	17.1%	30.8%	8.4%	15.1%
Sometimes	25.7%	25.0%	16.1%	20.4%
Most of the time	35.7%	23.1%	15.4%	22.3%
Always	20.0%	17.3%	58.0%	40.0%
	N=70	N=52	N=143	N=265

Q12 Is there a source of clean water for drinking at school?

	白雲	藤誼	匹河	3 校
Yes	98.6%	92.5%	85.9%	90.6%
No	1.4%	7.5%	14.1%	9.4%
	N=70	N=53	N=142	N=265

Q9 During the past 30 days, how often did you use soap when washing your hands?

	白雲	藤誼	匹河	3 校
Never	5.7%	13%	6.3%	7.5%
Rarely	40.0%	38%	11.8%	24.3%
Sometimes	21.4%	38%	24.3%	26.2%
Most of the time	21.4%	4%	13.2%	13.5%
Always	11.4%	8%	44.4%	28.5%
	N=70	N=53	N=144	N=267

Q13 During the last school year, were you taught in any of your classes how to avoid worm infection? Q

	白雲	藤誼	匹河	3 校
Yes	62.9%	67.9%	79.0%	72.6%
No	18.6%	26.4%	12.6%	16.9%
Do not know	18.6%	5.7%	8.4%	10.5%
	N=70	N=53	N=143	N=266

Q14 During the last school year, were you taught in any of your classes where to get treatment for a worm infection?

	白雲	藤誼	匹河	3 校
Yes	27.1%	32.7%	75.4%	54.2%
No	60.0%	55.8%	16.9%	36.0%
Do not know	12.9%	11.5%	7.7%	9.8%
	N=70	N=52	N=142	N=264

Q10 過去 30 日以内石けんを使って手洗ったこと話しましたか？

	白雲	藤誼	匹河	3 学校
一度も話してない	25.7%	32.1%	28.4%	28.4%
余り話さない	31.4%	28.3%	6.4%	17.4%
時々話する	21.4%	24.5%	14.9%	18.6%
たいてい話する	8.6%	3.8%	8.5%	7.6%
常に話する	12.9%	11.3%	41.8%	28.0%
	N=70	N=53	N=141	N=264

Q11 過去 30 日以内学校で手洗いことを話しましたか？

	白雲	藤誼	匹河	3 学校
一度も話さない	31.4%	22.6%	21.6%	24.4%
余り話さない	28.6%	41.5%	15.8%	24.4%
時々話する	14.3%	24.5%	18.0%	18.3%
たいてい話する	5.7%	3.8%	7.9%	6.5%
常に話する	20.0%	7.5%	36.7%	26.3%
	N=70	N=53	N=139	N=262

Q15 During the last 12 months, how many times were you seriously injured?

	白雲	藤誼	匹河	3 校
0 times	91.4%	34.0%	33.3%	48.9%
1 time	4.3%	30.2%	23.4%	19.7%
2 or 3 times	2.9%	18.9%	16.3%	13.3%
4 or 5 times	0.0%	5.7%	9.2%	6.1%
6 or 7 times	0.0%	1.9%	4.3%	2.7%
8 or 9 times	0.0%	1.9%	2.1%	1.5%
10 or 11 times	0.0%	7.5%	5.0%	4.2%
12 or more times	1.4%	0.0%	6.4%	3.8%
	N=70	N=52	N=142	N=264

Q16 During the last 12 months, what were you doing when the most serious injury happened to you?

	白雲	籐誼	匹河	3 校
I was not seriously injured during the past 12 months	66.7%	50.0%	36.6%	47.9%
Playing or training for a sport	1.4%	18.0%	13.8%	11.2%
Walking or running, but not as part of playing or training for a sport	4.3%	18.0%	6.5%	8.3%
Riding a bicycle or scooter	10.1%	4.0%	4.9%	6.2%
Riding or driving in a car or other motor vehicle	0.0%	0.0%	2.4%	1.2%
Doing any paid or unpaid work, including housework, yard work, or cooking	5.8%	4.0%	15.4%	10.3%
Nothing	10.1%	4.0%	12.2%	9.9%
Something else	1.4%	2.0%	8.1%	5.0%
	N=69	N=50	N=123	N=242

Q19 During the past 12 months, what was the most serious injury that happened to you?

	白雲	籐誼	匹河	3 校
I was not seriously injured during the past 12 months				
I had a broken bone or a dislocated joint	82.4%	52.9%	35.9%	52.0%
I had a cut, puncture, or stab wound	1.5%	7.8%	4.6%	4.4%
I had a concussion or other head or neck injury, was knocked out, or could not breathe	10.3%	25.5%	23.7%	20.4%
I had a gunshot wound	0.0%	2.0%	2.3%	1.6%
I had a bad burn	0.0%	2.0%	3.8%	2.4%
I lost all or part of a foot, leg, hand, or arm	0.0%	3.9%	5.3%	3.6%
Something else happened to me	0.0%	0.0%	9.2%	4.8%
	N=68	N=51	N=131	N=250

Q17 During the past 12 months, what was the major cause of the most serious injury that happened to you?

	白雲	籐誼	匹河	3 校
I was not seriously injured during the past 12 months	71.4%	40.0%	29.1%	42.9%
I was in a motor vehicle accident or hit by a motor vehicle	1.4%	12.0%	7.5%	6.7%
I fell	14.3%	30.0%	28.4%	24.8%
Something fell on me or hit me	2.9%	8.0%	7.5%	6.3%
I was fighting with someone	5.7%	4.0%	6.0%	5.5%
I was attacked, assaulted, or abused by someone	2.9%	0.0%	1.5%	1.6%
I was in a fire or too near a flame or something hot	0.0%	0.0%	4.5%	2.4%
Something else caused my injury	1.4%	6.0%	14.9%	9.4%
	N=70	N=50	N=134	N=254

Q18 During the past 12 months, how did the most serious injury happen to you?

	白雲	籐誼	匹河	3 校
I was not seriously injured during the past 12 months	73.5%	41.2%	29.0%	43.6%
I hurt myself by accident	19.1%	29.4%	42.0%	33.2%
Someone else hurt me by accident	1.5%	9.8%	6.1%	5.6%
I hurt myself on purpose	2.9%	5.9%	4.6%	4.4%
Someone else hurt me on purpose	2.9%	11.8%	18.3%	12.8%
	N=68	N=51	N=131	N=250

